



複数のワークフローに関連するタスクと情報 Active IQ Unified Manager 9.9

NetApp
December 15, 2023

目次

複数のワークフローに関連するタスクと情報	1
イベントに関するメモの追加と確認	1
特定のユーザにイベントを割り当てます	1
イベントを確認して解決します	2
イベントの詳細ページ	3
概要のイベントの重大度タイプ	9
イベントの影響レベルの概要	9
イベントの影響領域の概要	10
クラスタコンポーネントとその競合要因	11
ボリューム / 健全性の詳細ページ	13
Storage VM / 健全性の詳細ページ	29
クラスタ / 健全性の詳細ページ	44
アグリゲート / 健全性の詳細ページ	58
ユーザを追加する	68
データベースユーザを作成しています	69
ユーザタイプの定義	70
Unified Manager のユーザロールと機能	71
HTTPS セキュリティ証明書の生成	72
Unified Manager の CLI コマンドがサポートされています	74

複数のワークフローに関連するタスクと情報

Unified Manager の多くのワークフローに、共通のタスク、およびワークフローの理解と実行に役立つ参照情報があります。たとえば、イベントに関するメモの追加と確認、イベントの割り当て、イベントへの応答と解決、ボリューム、Storage Virtual Machine (SVM)、アグリゲートに関する詳細情報、など。

イベントに関するメモの追加と確認

イベントに対処しながら、イベントの詳細ページのメモと更新領域を使用して、問題の対処方法に関する情報を追加することができます。この情報を使用すると、別のユーザが割り当てられてイベントに対処できます。タイムスタンプに基づいて、イベントに最後に対処したユーザが追加した情報を確認することもできます。

作業を開始する前に

オペレータ、アプリケーション管理者、またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、* Events * (イベント *) をクリックします。
2. イベント管理*インベントリページで、イベント関連情報を追加するイベントをクリックします。
3. [イベント*の詳細]ページの[メモと更新]領域に必要な情報を追加します。
4. [* Post*]をクリックします。

特定のユーザにイベントを割り当てます

未割り当てのイベントは、自分自身またはリモートユーザを含む他のユーザに割り当てることができます。必要に応じて、割り当てられたイベントを別のユーザに再割り当てすることもできます。たとえば、ストレージオブジェクトで頻繁に問題が発生する場合、そのオブジェクトを管理するユーザにそれらの問題に対するイベントを割り当てることができます。


作業を開始する前に

- ユーザの名前と E メール ID が正しく設定されている必要があります。
- オペレータ、アプリケーション管理者、またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、* イベント管理 * をクリックします。
2. [* イベント管理 *] インベントリページで、割り当てるイベントを 1 つ以上選択します。

3. 次のいずれかを実行してイベントを割り当てます。

イベントを割り当てるユーザ	操作
自分自身	[* Assign to * > * Me *] をクリックします。
別のユーザ	<div><div><div>1. [* Assign to * > * another user* (* 他のユーザーに割り当て)] をクリックします</div><div>2. 所有者の割り当てダイアログボックスで、ユーザー名を入力するか、ドロップダウンリストからユーザーを選択します。</div><div>3. [Assign] をクリックします。</div></div><div>ユーザに E メール通知が送信されます。</div><div><div></div><div>ユーザ名を入力しない場合、またはドロップダウンリストからユーザーを選択し、 * assign * をクリックすると、イベントは未割り当てのままになります。</div></div></div>

イベントを確認して解決します

イベントを生成した問題で作業を開始する前に、アラート通知が繰り返し送信されないようにイベントに確認応答する必要があります。特定のイベントに対処したら、そのイベントを解決済みとしてマークします。

作業を開始する前に

オペレータ、アプリケーション管理者、またはストレージ管理者のロールが必要です。

このタスクについて

複数のイベントに同時に確認応答して解決することができます。



情報イベントに確認応答することはできません。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、 * イベント管理 * をクリックします。
2. イベントのリストで、次の操作を実行してイベントに応答します。

状況	手順
1つのイベントに確認応答して解決済みとしてマークします	<ol style="list-style-type: none"> 1. イベント名をクリックします。 2. イベントの詳細ページで、イベントの原因を確認します。 3. [* Acknowledge (確認)] をクリックし 4. 適切な方法で対処します。 5. [* 解決済みとしてマークする *] をクリックします。
複数のイベントに確認応答して解決済みとしてマークします	<ol style="list-style-type: none"> 1. それぞれのイベントの詳細ページでイベントの原因を確認します。 2. イベントを選択します。 3. [* Acknowledge (確認)] をクリックし 4. 適切な方法で対処します。 5. [* 解決済みとしてマークする *] をクリックします。

解決済みとしてマークされたイベントは、解決済みイベントのリストに移動します。

1. [メモと更新*]領域で、イベントの対処方法に関するメモを追加し、[投稿]をクリックします。

イベントの詳細ページ

イベントの詳細ページでは、選択したイベントの重大度、影響レベル、影響領域、イベントソースなどの詳細を確認できます。問題を解決するための考えられる対処方法について、追加情報を確認することもできます。

• * イベント名 *

イベントの名前と最終確認時刻。

パフォーマンスイベント以外のイベントの場合は、状態が「新規」または「確認済み」のときは最終確認時刻が不明なため、この情報は表示されません。

• * イベント概要 *

イベントの簡単な概要。

イベント概要には、イベントがトリガーされた理由が含まれる場合があります。

• * 競合状態のコンポーネント *

動的なパフォーマンスイベントについて、クラスタの論理コンポーネントと物理コンポーネントを表すアイコンが表示されます。コンポーネントが競合状態にある場合は、アイコンが赤い丸で強調表示されます。

を参照してください [クラスタコンポーネントとその競合要因](#) ここに表示されている構成要素の概要 の場合。

「イベント情報」、「システム診断」、および「推奨処置」の各セクションについては、他のトピックで説明しています。

コマンドボタン

各コマンドボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- * メモアイコン *

イベントに関するメモを追加または更新したり、他のユーザが残したすべてのメモを確認したりできます。

- アクションメニュー *

- * 自分に割り当て *

イベントを自分に割り当てます。

- * 他のユーザーに割り当て *

[所有者の割り当て] ダイアログボックスが開きますこのダイアログボックスで ' イベントを他のユーザーに割り当てたり ' 再割り当てしたりできます

イベントをユーザに割り当てると、イベントリストの選択したイベントの該当するフィールドに、ユーザの名前とイベントが割り当てられた時刻が追加されます。

所有権のフィールドを空白にすると、イベントの割り当てを解除できます。

- * 確認 *

選択したイベントに確認応答し、アラート通知が繰り返し送信されないようにします。

イベントを確認すると、ユーザ名とそのイベントを確認した時刻が、選択したイベントのイベントリスト（確認済みのイベントのリスト）に追加されます。確認したイベントについては、自分で対処する必要があります。

- * 解決済みとしてマーク *

イベントの状態を解決済みに変更できます。

イベントを解決すると、イベントリスト（で解決）に選択したイベントのユーザ名と解決時刻が追加されます。イベントに対処したら、そのイベントを解決済みとしてマークする必要があります。

- * アラートの追加 *

アラートの追加ダイアログボックスが表示され、選択したイベントにアラートを追加できます。

[Event Information] セクションに表示される内容

イベントの詳細ページのイベント情報セクションでは、選択したイベントについて、イベントの重大度、影響レベル、影響領域、イベントソースなどの詳細を確認できます。

イベントタイプに該当しないフィールドは表示されません。イベントに関する次の詳細を確認できます。

- * イベントトリガー時間 *

イベントが生成された時刻。

- * 状態 *

イベントの状態：新規、確認済み、解決済み、廃止。

- * 原因を廃止 *

問題が修正されたなど、イベントを廃止する原因となった操作。

- * イベント期間 *

アクティブなイベント（新規および確認済みのイベント）の場合は、イベントが検出されてから最後に分析されるまでの時間です。廃止イベントの場合は、イベントが検出されてから解決されるまでの時間です。

このフィールドは、すべてのパフォーマンスイベントに対して表示されます。その他のタイプのイベントについては、解決されるか廃止になったあとにのみ表示されます。

- * 最終発生日 *

イベントがアクティブだった最終日時。

パフォーマンスイベントの場合は、イベントがアクティブであるかぎり、パフォーマンスデータの新しい収集が実行されるたびにこのフィールドが更新されるため、この値はイベントトリガー時間よりも新しい可能性があります。その他のタイプのイベントの場合は、状態が「新規」または「確認済み」のときは内容が更新されないため、このフィールドは非表示になります。

- * 重大度 *

イベントの重大度：Critical (❌)、エラー (❗)、警告 (⚠)、および情報 (ℹ)。

- * 影響レベル *

イベントの影響レベル：インシデント、リスク、イベント、アップグレード。

- * 影響領域 *

イベントの影響領域：可用性、容量、パフォーマンス、保護、構成、または Security を選択します。

- * 出典 *

イベントが発生したオブジェクトの名前。

共有 QoS ポリシーのイベントの詳細を表示している場合、このフィールドには、IOPS または MBps が高い上位のワークロードオブジェクトが最大 3 つ表示されます。

ソース名のリンクをクリックすると、そのオブジェクトの健全性またはパフォーマンスの詳細ページを表示できます。

- * ソースアノテーション *

イベントが関連付けられているオブジェクトのアノテーションの名前と値が表示されます。

このフィールドは、クラスタ、SVM、およびボリュームの健全性イベントに対してのみ表示されます。

- * ソースグループ *

該当オブジェクトがメンバーになっているすべてのグループの名前が表示されます。

このフィールドは、クラスタ、SVM、およびボリュームの健全性イベントに対してのみ表示されます。

- * ソースタイプ *

イベントが関連付けられているオブジェクトのタイプ（SVM、ボリューム、qtree など）。

- * クラスタ上 *

イベントが発生したクラスタの名前。

クラスタ名のリンクをクリックすると、そのクラスタの健全性またはパフォーマンスの詳細ページを表示できます。

- * 影響を受けるオブジェクト数 *

イベントの影響を受けるオブジェクトの数。

オブジェクトのリンクをクリックすると、インベントリページが表示され、現在このイベントの影響を受けているオブジェクトを確認できます。

このフィールドは、パフォーマンスイベントに対してのみ表示されます。

- * 影響を受けるボリューム *

このイベントの影響を受けるボリュームの数。

このフィールドは、ノードまたはアグリゲートのパフォーマンスイベントに対してのみ表示されます。

- * トリガーされたポリシー *

イベントを発行したしきい値ポリシーの名前。

ポリシー名にカーソルを合わせると、しきい値ポリシーの詳細を確認できます。アダプティブ QoS ポリシーの場合は、定義されているポリシー、ブロックサイズ、および割り当てのタイプ（割り当てスペースまたは使用スペース）も表示されます。

このフィールドは、パフォーマンスイベントに対してのみ表示されます。

- * ルール ID *

Active IQ プラットフォームイベントの場合、イベントの生成をトリガーされたルールの番号です。

- * 承認者 *

イベントに確認応答したユーザの名前と応答時刻。

- * 解決者 *

イベントを解決したユーザの名前と解決時刻。

- * 割り当て先 *

イベントに対応するように割り当てられているユーザーの名前。

- * アラート設定 *

アラートに関する次の情報が表示されます。

- 選択したイベントに関連付けられているアラートがない場合は、* アラートの追加 * リンクが表示されます。

リンクをクリックすると、[Add Alert] ダイアログボックスを開くことができます。

- 選択したイベントにアラートが 1 つ関連付けられている場合は、そのアラートの名前が表示されます。

リンクをクリックすると、[Edit Alert] ダイアログボックスを開くことができます。

- 選択したイベントにアラートが複数関連付けられている場合は、アラートの数が表示されます。

リンクをクリックすると、アラートセットアップページが開き、アラートの詳細が表示されます。

無効になっているアラートは表示されません。

- * 最後に送信された通知 *

最新のアラート通知が送信された日時。

- * 送信者 *

アラート通知の送信に使用されたメカニズム（E メールまたは SNMP トラップ）。

- * 前回のスクリプト実行 *

アラートが生成されたときに実行されたスクリプトの名前。

「システム診断」セクションの表示内容

イベント詳細ページのシステム診断セクションには、イベントに関連する問題の診断に役立つ情報が記載されています。

この領域は、一部のイベントに対してのみ表示されます。

一部のパフォーマンスイベントについては、トリガーされたイベントに関連するグラフが表示されます。通常は、過去 10 日間の IOPS または MBps のグラフとレイテンシのグラフです。これらのグラフを確認することで、イベントがアクティブなときにレイテンシに影響している、または影響を受けているストレージコンポーネントを特定できます。

動的なパフォーマンスイベントについては、次のグラフが表示されます。

- ワークロードレイテンシ - 競合状態のコンポーネントの Victim、Bully、Shark の上位のワークロードについて、レイテンシの履歴が表示されます。
- ワークロードアクティビティ - 競合状態のクラスタコンポーネントのワークロードの使用量に関する詳細が表示されます。
- リソースアクティビティ - 競合状態のクラスタコンポーネントの過去のパフォーマンス統計が表示されます。

一部のクラスタコンポーネントが競合状態にある場合は、これ以外のグラフが表示されます。

その他のイベントについては、ストレージオブジェクトに対して実行されている分析タイプの簡単な概要が表示されます。複数のパフォーマンスカウンタを分析するシステム定義のパフォーマンスポリシーについて、分析されたコンポーネントごとに 1 行以上の行が表示されることがあります。このシナリオでは、診断の横に、その診断で問題が見つかったかどうかを示す緑または赤のアイコンが表示されます。

【提案されたアクション】セクションの表示内容

【イベントの詳細】ページの【提案されたアクション】セクションには、イベントの考えられる理由が表示され、独自の方法でイベントを解決できるようにいくつかのアクションが提案されます。推奨される対処方法は、イベントのタイプまたは超過したしきい値のタイプに基づいてカスタマイズされます。

この領域は、一部のタイプのイベントに対してのみ表示されます。

特定のアクションを実行するための手順など、推奨される多くのアクションについて追加情報を参照する * Help * リンクがページに表示される場合があります。一部の対処方法では、Unified Manager、ONTAP System Manager、OnCommand Workflow Automation、ONTAP CLI コマンド、またはこれらのツールの組み合わせを使用する場合があります。

これらの推奨される対処方法は、このイベントを解決するための一般的なガイダンスであることに注意してください。このイベントを解決するための対処方法は、環境に応じて決める必要があります。

オブジェクトやイベントを詳しく分析するには、* ワークロードの分析 * ボタンをクリックしてワークロードの分析ページを表示します。

イベントによっては、Unified Manager の詳細な診断によって 1 つの解決策が提供されることがあります。解決策がある場合は、* Fix it * ボタンで表示されます。このボタンをクリックすると、Unified Manager によってイベントの原因となっている問題が修正されます。

Active IQ プラットフォームイベントの場合、問題と解決策について解説したネットアップのナレッジベースの記事へのリンクがこのセクションに表示されることがあります。外部ネットワークへのアクセスがないサイトでは、ナレッジベースの記事の PDF がローカルで開きます。この PDF は、Unified Manager インスタンスに手動でダウンロードしたルールファイルに含まれています。

概要のイベントの重大度タイプ

イベントには、対処する際の優先度を判別できるように、それぞれ重大度タイプが関連付けられています。

- * 重要 *

問題が発生しており、すぐに対処しないとサービスが停止する可能性があります。

パフォーマンスに関する重大イベントは、ユーザ定義のしきい値からのみ生成されます。

- * エラー *

イベントソースは実行中ですが、サービスの停止を回避するために対処が必要です。

- * 警告 *

イベントソースに注意が必要なアラートが発生したか、クラスタオブジェクトのパフォーマンスカウンタが正常な範囲から外れており、重大な問題にならないように監視が必要です。この重大度のイベントでは原因サービスは停止しません。早急な対処も不要です。

パフォーマンスに関する警告イベントは、ユーザ定義のしきい値、システム定義のしきい値、または動的なしきい値から生成されます。

- * 情報 *

新しいオブジェクトが検出されたときやユーザ操作が実行されたときに発生します。たとえば、ストレージオブジェクトが削除された場合や設定に変更があった場合は、情報タイプの重大度のイベントが生成されます。

情報イベントは、設定の変更が検出されたときに ONTAP から直接送信されます。

イベントの影響レベルの概要

イベントには、対処する際の優先度を判別できるように、それぞれに影響レベル（インシデント、リスク、イベント、またはアップグレード）が関連付けられています。

- * インシデント *

インシデントは、クラスタによるクライアントへのデータの提供の停止やデータを格納するスペースの不足を発生させることができる一連のイベントです。影響レベルが「インシデント」のイベントは、最も重大度が高く、サービスの停止を回避するためにすぐに対処する必要があります。

- * リスク *

リスクは、原因クラスタによるクライアントへのデータの提供の停止やデータを格納するスペースの不足を引き起こす可能性がある一連のイベントです。影響レベルが「リスク」のイベントは、原因サービスの停止につながる可能性があります。対処が必要な場合があります。

- * イベント *

イベントは、ストレージオブジェクトとその属性の状態やステータスの変化を示します。影響レベルが「イベント」のイベントは情報提供を目的としたものであり、対処は必要ありません。

- * アップグレード *

アップグレードイベントは、Active IQ プラットフォームから報告される特定のタイプのイベントです。これらのイベントは、ONTAP ソフトウェア、ノードファームウェア、またはオペレーティングシステムソフトウェア（セキュリティアドバイザリ用）のアップグレードが必要な問題を示します。これらの問題については、すぐに対処が必要なものもあれば、スケジュールされた次のメンテナンスまで待てるものもあります。

イベントの影響領域の概要

イベントは、6 つの影響領域（可用性、容量、構成、パフォーマンス、保護、および security）を使用して、管理者が担当するタイプのイベントに集中できるようにします。

- * 利用可能性 *

可用性イベントは、ストレージオブジェクトがオフラインになった場合、プロトコルサービスが停止した場合、ストレージフェイルオーバーを実行した問題が発生した場合、ハードウェアで問題が実行された場合に通知するイベントです。

- * 容量 *

容量イベントは、アグリゲート、ボリューム、LUN、またはネームスペースのサイズがしきい値に近づいているか達した場合、または環境の通常の増加率とかけ離れている場合に通知するイベントです。

- * コンフィグレーション *

構成イベントは、ストレージオブジェクトの検出、削除、追加、または名前変更について通知するイベントです。構成イベントの影響レベルは「イベント」、重大度タイプは「情報」です。

- * パフォーマンス *

パフォーマンスイベントは、監視対象のストレージオブジェクトにおけるデータストレージの入力速度や取得速度に悪影響を及ぼす可能性がある、クラスタのリソース、設定、または処理の状況について通知するイベントです。

- * 保護 *

保護イベントは、SnapMirror 関係に関するインシデントやリスク、デスティネーションの容量の問題、SnapVault 関係の問題、または保護ジョブの問題について通知するイベントです。セカンダリボリュームおよび保護関係をホストする ONTAP オブジェクト（アグリゲート、ボリューム、および SVM）は、いずれもこの影響領域に分類されます。

- * セキュリティ *

セキュリティイベントは、で定義されたパラメータに基づいて、ONTAP クラスタ、Storage Virtual Machine（SVM）、およびボリュームのセキュリティがどの程度確保されるかを通知します ["ONTAP 9 セキュリティ設定ガイド"](#)。

また、この領域には、Active IQ プラットフォームから報告されるアップグレードイベントも含まれます。

クラスタコンポーネントとその競合要因

クラスタコンポーネントの競合の原因となるクラスタのパフォーマンスの問題を特定することができます。コンポーネントを使用するワークロードのパフォーマンスが低下し、クライアント要求に対する応答時間（レイテンシ）が長くなると、Unified Manager でイベントがトリガーされます。

競合状態のコンポーネントは、最適なレベルのパフォーマンスを提供できません。パフォーマンスが低下し、_Victim_ と呼ばれる他のクラスタコンポーネントやワークロードのパフォーマンスによってレイテンシが増大する可能性があります。コンポーネントの競合状態を解消するには、ワークロードを減らすか処理能力を高めることでパフォーマンスを通常レベルに戻す必要があります。Unified Manager では、ワークロードのパフォーマンスの収集と分析が 5 分間隔で行われるため、クラスタコンポーネントの利用率が高い状態が長時間続いたときにのみ検出されます。利用率が高い状態が 5 分インターバルの間に短時間しか続かないような一時的な利用率の急増は検出されません。

ストレージアグリゲートが競合状態になる原因としては、たとえば、1 つ以上のワークロードがそれぞれの I/O 要求に対応するために競合する場合などがあります。アグリゲートの他のワークロードに影響し、それらのワークロードのパフォーマンスが低下する可能性があります。アグリゲートのアクティビティを減らす方法はいくつかありますが、たとえば、1 つ以上のワークロードを負荷の低いアグリゲートまたはノードに移動し、現在のアグリゲートに対する全体的なワークロードの負荷を低くするなどの方法が効果的です。QoS ポリシーグループの場合は、スループット制限を調整したりワークロードを別のポリシーグループに移動したりすることで、ワークロードが抑制されないようにすることができます。

Unified Manager では、次のクラスタコンポーネントを監視して、これらのコンポーネントが競合状態になるとアラートを生成します。

- * ネットワーク *

クラスタの外部ネットワークプロトコルによる I/O 要求の待機時間を表します。待機時間とは、クラスタが I/O 要求に 응답できるようになるまで「transfer ready」トランザクションが完了するのを待機する時間です。ネットワークコンポーネントが競合状態にある場合、プロトコルレイヤでの長い待機時間は、1 つ以上のワークロードのレイテンシに影響していることを意味します。

- * ネットワーク処理 *

プロトコルレイヤとクラスタ間の I/O 処理に関与する、クラスタ内のソフトウェアコンポーネントを表します。ネットワーク処理を実行するノードがイベント検出後に変更された可能性があります。ネットワーク処理コンポーネントが競合状態にある場合、ネットワーク処理ノードでの高利用率は、1 つ以上のワークロードのレイテンシに影響していることを意味します。

アクティブ / アクティブ構成でオール SAN アレイクラスタを使用している場合は、両方のノードのネットワーク処理のレイテンシの値が表示され、ノードが負荷を均等に共有していることを確認できます。

- * 最大 QoS

ワークロードに割り当てられたストレージ QoS ポリシーグループの最大スループット（ピーク）設定を表します。ポリシーグループコンポーネントが競合状態にある場合、ポリシーグループ内のすべてのワークロードに、スループットの制限によってスロットルが適用され、1 つ以上のワークロードのレイテンシ

に影響していることを意味します。

- * 最小 QoS

他のワークロードに割り当てられた QoS スループットの下限（想定）設定によって引き起こされている、ワークロードへのレイテンシを表します。設定されている QoS の下限に応じて特定のワークロードが保証されたスループットを確保するために帯域幅の大部分を使用すると、他のワークロードは調整されてレイテンシが増大します。

- * クラスタインターコネクト *

クラスタノードを物理的に接続するケーブルとアダプタを表します。クラスタインターコネクトコンポーネントが競合状態にある場合は、クラスタインターコネクトでの I/O 要求の長い待機時間がワークロードのレイテンシに影響していることを意味します。

- * データ処理 *

クラスタとストレージアグリゲート間でワークロードを含む I/O 処理に関与する、クラスタ内のソフトウェアコンポーネントを表します。データ処理を実行するノードがイベント検出後に変更された可能性があります。データ処理コンポーネントが競合状態にある場合、データ処理ノードでの高利用率は、1 つ以上のワークロードのレイテンシに影響していることを意味します。

- * ボリュームアクティベーション *

すべてのアクティブボリュームの使用状況を追跡するプロセスです。1000 を超えるアクティブボリュームを擁する大規模な環境で、ノード経由で同時にリソースにアクセスする必要がある重要なボリュームの数を追跡します。同時アクティブボリュームの数が推奨される最大しきい値を超えると、重要でない一部のボリュームでレイテンシが発生します。

- * MetroCluster リソース *

NVRAM とインタースイッチリンク（ISL）を含む MetroCluster リソースを表します。MetroCluster 構成のクラスタ間でデータをミラーリングするのに使用します。MetroCluster コンポーネントが競合状態問題にある場合は、ローカルクラスタのワークロードによる大量の書き込みスループットまたはリンクの不具合が、ローカルクラスタの 1 つ以上のワークロードのレイテンシに影響していることを意味します。クラスタが MetroCluster 構成に含まれていない場合は、このアイコンは表示されません。

- * アグリゲートまたは SSD アグリゲートの処理 *

ワークロードが実行されているストレージアグリゲートを表します。アグリゲートコンポーネントが競合状態にある場合、アグリゲートの高利用率が 1 つ以上のワークロードのレイテンシに影響していることを意味します。アグリゲートには、HDD のみで構成されるものと、HDD と SSD が混在するもの（Flash Pool アグリゲート）と、HDD とクラウド階層が混在するもの（FabricPool アグリゲート）があります。「SD アグリゲート」は、すべての SSD（オールフラッシュアグリゲート）、または SSD とクラウド階層（FabricPool アグリゲート）が混在しています。

- * クラウドレイテンシ *

クラスタとユーザーデータ格納先のクラウド階層の間の I/O 処理に関与する、クラスタ内のソフトウェアコンポーネントを表します。クラウドレイテンシコンポーネントが競合状態にある場合、クラウド階層でホストされたボリュームからの大量の読み取りが 1 つ以上のワークロードのレイテンシに影響していることを意味します。

- * 同期 SnapMirror *

SnapMirror 同期関係でのプライマリボリュームからセカンダリボリュームへのユーザデータのレプリケーションに関係する、クラスタ内のソフトウェアコンポーネントを表します。同期 SnapMirror コンポーネントが競合状態にある場合、SnapMirror Synchronous 処理のアクティビティが 1 つ以上のワークロードのレイテンシに影響していることを意味します。

ボリューム / 健全性の詳細ページ

ボリューム / 健全性の詳細ページでは、選択したボリュームについて、容量、ストレージ効率、設定、保護などの詳細情報を確認できます。生成されたアノテーションおよびイベントまた、そのボリュームに関連するオブジェクトやアラートに関する情報も参照できます。

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

コマンドボタン

選択したボリュームについて、各コマンドボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- * パフォーマンスビューに切り替え *

ボリューム / パフォーマンスの詳細ページに移動できます。

- * アクション *

- アラートを追加します

選択したボリュームにアラートを追加できます。

- しきい値の編集

選択したボリュームのしきい値の設定を変更できます。

- 注釈

選択したボリュームをアノテートできます。

- 保護

選択したボリュームの SnapMirror 関係または SnapVault 関係を作成できます。

- 関係

保護関係について次の処理を実行できます。

- 編集

関係の編集ダイアログボックスが開き、既存の保護関係の既存の SnapMirror ポリシー、スケジュール、および最大転送速度を変更できます。

- 中止

選択した関係の実行中の転送を中止します。必要に応じて、ベースライン転送以外の転送の再開チェックポイントを削除することもできます。ベースライン転送のチェックポイントは削除できません。

- 休止

選択した関係のスケジュールによる更新を一時的に無効にします。すでに実行中の転送は、関係を休止する前に完了しておく必要があります。

- 休憩

ソースボリュームとデスティネーションボリューム間の関係を解除し、デスティネーションを読み書き可能ボリュームに変更します。

- 取り外します

選択したソースとデスティネーション間の関係を完全に削除します。ボリュームが破棄されるわけではなく、ボリューム上の Snapshot コピーは削除されません。この処理を元に戻すことはできません。

- 再開

休止中の関係のスケジュールされた転送を有効にします。スケジュールされた次の転送時に、再開チェックポイントがある場合はそこから再開されます。

- 再同期

以前に解除した関係を再同期できます。

- 初期化 / 更新

新しい保護関係の場合は最初のベースライン転送を実行し、すでに初期化された関係の場合は手動更新を実行できます。

- リバース再同期

以前に解除した保護関係を再確立できます。この処理では、ソースとデスティネーションの機能が入れ替わり、ソースが元のデスティネーションのコピーになります。ソースのコンテンツはデスティネーションのコンテンツで上書きされ、共通の Snapshot コピーのデータよりも新しいデータはすべて削除されます。

- リストア

ボリュームのデータを別のボリュームにリストアできます。



同期保護関係にあるボリュームについては、リストアボタンと関係操作ボタンは使用できません。

- * ボリュームの表示 *

Health : All Volumes ビューに移動できます。

Capacity（容量）タブ

Capacity タブには、選択したボリュームについて、物理容量、論理容量、しきい値の設定、クォータの容量、ボリューム移動処理に関する情報などの詳細が表示されます。

- * 容量物理容量 *

ボリュームの物理容量の詳細：

- Snapshot オーバーフロー

Snapshot コピーで使用されているデータスペースが表示されます。

- 使用済み

ボリュームでデータに使用されているスペースが表示されます。

- 警告

ボリュームのスペースがほぼフルであることを示します。このしきい値を超えると、「スペースがほぼフル」イベントが生成されます。

- エラー

ボリュームのスペースがフルであることを示します。このしきい値を超えると、「スペースがフル」イベントが生成されます。

- 使用不可

「シンプロビジョニングボリュームにスペースリスクあり」イベントが生成され、シンプロビジョニングボリュームのスペースがアグリゲートの容量の問題が原因で確保できないことを示します。使用不可の容量は、シンプロビジョニングボリュームの場合にのみ表示されます。

- データグラフ

ボリュームの合計データ容量と使用済みデータ容量が表示されます。

自動拡張が有効になっている場合は、アグリゲートの使用可能なスペースも表示されます。このグラフには、ボリュームのデータに使用できる実質的なストレージスペースとして、次のいずれかが表示されます。

- 次の場合は実際のデータ容量：

- 自動拡張が無効になっている。
- ボリュームで自動拡張が有効になっており、最大サイズに達している。
- シックプロビジョニングボリュームで自動拡張が有効になっており、それ以上拡張できない。

- 最大ボリュームサイズを考慮したボリュームのデータ容量（シンプロビジョニングボリュームおよびシックプロビジョニングボリュームでボリュームの最大サイズに対応するスペースがアグリゲートにある場合）

- 次回の自動拡張のサイズを考慮したボリュームのデータ容量（シックプロビジョニングボリュームで自動拡張の割合のしきい値に対応できる場合）

- Snapshot コピーのグラフ

このグラフは、Snapshot 使用容量または Snapshot リザーブが 0 でない場合にのみ表示されます。

どちらのグラフにも、Snapshot 使用容量が Snapshot リザーブを超えている場合には超過分の使用容量が表示されます。

- * 容量の論理値 *

ボリュームの論理スペースが表示されます。論理スペースはディスクに格納されているデータの実際のサイズで、ONTAP の Storage Efficiency テクノロジーによる削減を適用する前のサイズです。

- 論理スペースのレポート

ボリュームで論理スペースのレポートが設定されているかどうかが表示されます。「有効」、「無効」、「該当なし」のいずれかになります。古いバージョンの ONTAP 上のボリューム ' または論理スペース・レポートをサポートしていないボリュームについては ' 該当しないが表示されます

- 使用済み

ボリュームでデータに使用されている論理スペースの量と合計データ容量に対する使用済みの論理スペースの割合が表示されます。

- 論理スペースの適用

シンプロビジョニングボリュームに対して論理スペースの適用が設定されているかどうかが表示されます。enabled に設定する場合、ボリュームの論理使用済みサイズを現在設定されている物理ボリュームサイズよりも大きくすることはできません。

- * 自動拡張 *

スペースが不足したときにボリュームが自動で拡張されるかどうかが表示されます。

- * スペース保証 *

FlexVol ボリュームがアグリゲートから空きブロックを削除するタイミングを制御する設定が表示されます。削除されたブロックは、ボリューム内のファイルへの書き込み用に確保されます。スペースギャランティは次のいずれかに設定できます。

- なし

ボリュームにスペースギャランティが設定されていません。

- ファイル。

データが書き込まれていないファイル（LUN など）のフルサイズが確保されます。

- ボリューム

ボリュームのフルサイズが確保されます。

- 一部有効です

FlexCache ボリュームのサイズに基づいてスペースがリザーブされます。FlexCache ボリュームのサイズが 100MB 以上の場合は、最小スペースギャランティはデフォルトで 100MB に設定されます。FlexCache ボリュームのサイズが 100MB 未満の場合は、最小スペースギャランティは FlexCache ボリュームのサイズに設定されます。FlexCache ボリュームのサイズがあとで拡張されても、最小スペースギャランティはそのままです。



ボリュームのタイプが「データキャッシュ」の場合、スペースギャランティは「一部」です。

- * 詳細（物理） *

ボリュームの物理仕様が表示されます。

- * 合計容量 *

ボリュームの合計物理容量が表示されます。

- * データ容量 *

ボリュームで使用されている物理スペース（使用済み容量）とボリュームで使用可能な残りの物理スペース（空き容量）が表示されます。それぞれについて、物理容量全体に対する割合の値も表示されます。

シンプロビジョニングボリュームについて「シンプロビジョニングボリュームにスペースリスクあり」イベントが生成された場合は、ボリュームで使用されているスペース（使用済み容量）と、ボリュームで使用可能なスペースのうちアグリゲートの容量の問題が原因で使用できないスペース（使用不可の容量）が表示されます。

- * Snapshot リザーブ *

ボリュームで Snapshot コピーに使用されているスペース（使用済み容量）と Snapshot コピーに使用可能なスペース（空き容量）が表示されます。これらの値は、Snapshot リザーブ全体に対する割合としても表示されます。

シンプロビジョニングボリュームについて「シンプロビジョニングボリュームにスペースリスクあり」イベントが生成された場合は、Snapshot コピーで使用されているスペース（使用済み容量）と、ボリュームで使用可能なスペースのうち Snapshot コピーの作成に使用できないスペース（使用不可の容量）。アグリゲートの容量の問題が原因であると表示されます。

- * ボリュームしきい値 *

ボリュームの容量に関する次のしきい値が表示されます。

- ほぼフルのしきい値

ボリュームがほぼフルであるとみなす割合を示します。

- フルのしきい値

ボリュームがフルであるとみなす割合を示します。

- * その他の詳細 *

- 自動拡張時の最大サイズ

ボリュームを自動的に拡張できる最大サイズが表示されます。デフォルト値は、作成時のボリュームサイズの 120% です。このフィールドは、ボリュームで自動拡張が有効になっている場合にのみ表示されます。

- qtrees クォータコミット容量

クォータでリザーブされているスペースが表示されます。

- qtrees クォータオーバーコミット容量

「ボリュームの qtrees クォータがオーバーコミット」イベントが生成される基準となるスペースの使用量が表示されます。

- フラクショナルリザーブ

オーバーライトリザーブのサイズを制御します。フラクショナルリザーブのデフォルト設定は 100 で、必要なリザーブスペースが 100% リザーブされ、オブジェクトの上書きが完全に保証されます。フラクショナルリザーブが 100% 未満の場合、そのボリューム内のすべてのスペースリザーブファイル用にリザーブされるスペースがその割合まで縮小されます。

- Snapshot の日次増加率

選択したボリューム内の Snapshot コピーの 24 時間ごとの変化（割合または KB、MB、GB など）が表示されます。

- Snapshot のフルまでの日数

ボリューム内の Snapshot コピー用にリザーブされたスペースが、指定のしきい値に達するまでの推定日数が表示されます。

ボリューム内の Snapshot コピーの増加率がゼロまたは負の場合、または増加率を計算するためのデータが十分でない場合は、「Snapshot Days to Full」フィールドに Not Applicable と表示されます。

- Snapshot の自動削除

アグリゲートのスペース不足が原因でボリュームへの書き込みが失敗する場合に Snapshot コピーを自動で削除するかどうかを指定します。

- Snapshot コピー

ボリューム内の Snapshot コピーに関する情報が表示されます。

ボリューム内の Snapshot コピーの数がリンクとして表示されます。リンクをクリックすると、ボリューム上の Snapshot コピーが開き、Snapshot コピーの詳細が表示されます。

Snapshot コピー数の更新は約 1 時間ごとですが、Snapshot コピーのリストはアイコンをクリックした時点で更新されます。そのため、トポロジに表示される Snapshot コピー数とアイコンをクリックしたときに表示される Snapshot コピーの数は一致しないことがあります。

- * ボリューム移動 *

ボリュームで実行された現在または前回のボリューム移動処理のステータスが表示されます。ボリューム移動処理の現在実行中のフェーズ、ソースアグリゲート、デスティネーションアグリゲート、開始時刻、

終了時刻などの詳細も表示されます。と推定終了時間です。

選択したボリュームで実行されたボリューム移動処理の数も表示されます。ボリューム移動操作の詳細を表示するには、* Volume Move History * リンクをクリックします。

【構成】タブ

設定タブには、選択したボリュームについて、エクスポートポリシー、RAID タイプ、容量やストレージ効率化の関連機能に関する詳細が表示されます。

- * 概要 *

- フルネーム

ボリュームの完全な名前が表示されます。

- アグリゲート

ボリュームが配置されているアグリゲートの名前、または FlexGroup ボリュームが配置されているアグリゲートの数が表示されます。

- 階層化ポリシー

ボリュームが FabricPool 対応アグリゲートに導入されている場合に、ボリュームに対して設定されている階層化ポリシーが表示されます。「なし」、「Snapshot のみ」、「バックアップ」、「自動」、「すべて」のいずれかになります。

- Storage VM

ボリュームが含まれている SVM の名前が表示されます。

- ジャンクションパス

パスのステータスが表示されます。アクティブまたは非アクティブにできます。ボリュームのマウント先の SVM のパスも表示されます。「* History *」リンクをクリックすると、ジャンクションパスに対する最新の 5 つの変更を表示できます。

- エクスポートポリシー

ボリューム用に作成されたエクスポートポリシーの名前が表示されます。リンクをクリックすると、そのエクスポートポリシー、認証プロトコル、および SVM に属するボリュームで有効になっているアクセスに関する詳細を確認できます。

- スタイル (Style)

ボリュームの形式が表示されます。「FlexVol」または「FlexGroup」のいずれかです。

- を入力します

選択したボリュームのタイプが表示されます。「読み取り / 書き込み」、「負荷共有」、「データ保護」、「データキャッシュ」、「一時」のいずれかです。

- RAID タイプ

選択したボリュームの RAID タイプが表示されます。RAID タイプには、RAID 0、RAID 4、RAID-DP、または RAID-TEC を指定できます。



FlexGroup ボリュームの場合、コンスティチュエントボリュームを異なるタイプのアグリゲートに配置できるため、RAID タイプが複数表示されることがあります。

- SnapLock タイプ

ボリュームが含まれているアグリゲートの SnapLock タイプが表示されます。

- SnapLock の有効期限

SnapLock ボリュームの有効期限が表示されます。

- * 容量 *

- シンプロビジョニング

ボリュームにシンプロビジョニングが設定されているかどうかが表示されます。

- 自動拡張

アグリゲート内でフレキシブルボリュームが自動的に拡張されるかどうかが表示されます。

- Snapshot の自動削除

アグリゲートのスペース不足が原因でボリュームへの書き込みが失敗する場合に Snapshot コピーを自動で削除するかどうかを指定します。

- クォータ

ボリュームに対してクォータが有効になっているかどうかを示します。

- * 効率性 *

- 圧縮

圧縮が有効か無効かを示します。

- 重複排除

重複排除が有効か無効かを示します。

- 重複排除モード

ボリュームで手動、スケジュール、またはポリシーベースのいずれの重複排除処理が有効になっているかを示します。モードがスケジュールに設定されている場合は処理のスケジュールが表示され、モードがポリシーに設定されている場合はポリシーの名前が表示されます。

- 重複排除タイプ

ボリュームで実行されている重複排除処理のタイプを示します。ボリュームで SnapVault 関係が確立されている場合は、「SnapVault」と表示されます。それ以外のボリュームの場合は、「標準」と表示されます。

- ストレージ効率化ポリシー

このボリュームに対して Unified Manager から割り当てられているストレージ効率化ポリシーの名前を示します。このポリシーを使用して、圧縮と重複排除の設定を制御できます。

- * 保護 *

- Snapshot コピー

Snapshot コピーの自動作成が有効か無効かを示します。

[保護] タブ

Protection タブには、選択したボリュームの保護に関する詳細について、遅延の情報、関係のタイプ、関係のトポロジなどの情報が表示されます。

- * 概要 *

選択したボリュームの保護関係（SnapMirror、SnapVault、または Storage VM DR）のプロパティが表示されます。それ以外の関係タイプの場合は、「関係タイプ」プロパティのみが表示されます。プライマリボリュームを選択した場合は、管理対象とローカルの Snapshot コピーポリシーのみが表示されます。SnapMirror 関係と SnapVault 関係について表示されるプロパティは次のとおりです。

- ソースボリューム

選択したボリュームがデスティネーションの場合、選択したボリュームのソースの名前が表示されます。

- 遅延ステータス

保護関係の更新または転送の遅延ステータスが表示されます。「エラー」、「警告」、「重大」のいずれかです。

同期関係については、遅延ステータスは適用されません。

- 遅延時間

ミラーのデータがソースより遅延している時間が表示されます。

- 前回の更新成功日時

保護の更新に最後に成功した日時が表示されます。

同期関係については、前回成功した更新は適用されません。

- ストレージサービスメンバー

ボリュームがストレージサービスに属しているかどうか、およびストレージサービスによって管理されているかどうかを示す「はい」または「いいえ」が表示されます。

- バージョンに依存しないレプリケーション

[はい]、[バックアップオプションあり]、または [なし] のいずれかを表示します。「はい」の場合は、ソースボリュームとデスティネーションボリュームで異なるバージョンの ONTAP ソフトウェアを実行している場合でも SnapMirror レプリケーションが可能です。バックアップオプションを指定した場合は、デスティネーションにバックアップコピーの複数のバージョンを保持できる SnapMirror 保護が実装されます。「なし」の場合は、バージョンに依存しないレプリケーションが有効になっていません

- 関係機能

保護関係に使用できる ONTAP 機能を示します。

- 保護サービス

関係が保護パートナーアプリケーションによって管理されている場合は、保護サービスの名前が表示されます。

- 関係タイプ

非同期ミラー、非同期バックアップ、非同期ミラーバックアップ、StrictSync、同期を実行できます。

- 関係の状態

SnapMirror 関係または SnapVault 関係の状態が表示されます。「未初期化」、「SnapMirror 済み」、「切断」のいずれかです。ソースボリュームを選択した場合は、関係の状態は適用されず表示されません。

- 転送ステータス

保護関係の転送ステータスが表示されます。転送ステータスは、次のいずれかになります。

- 中止しています

SnapMirror 転送は有効ですが、チェックポイントの削除を含む転送の中止処理が進行中です。

- チェック中です

デスティネーションボリュームの診断チェックを実行中で、実行中の転送はありません。

- 最終処理中です

SnapMirror 転送が有効になっています。現在 SnapVault 増分転送の転送後のフェーズです。

- アイドル

転送が有効になっており、実行中の転送はありません。

- 同期中

同期関係にある 2 つのボリュームのデータが同期されています。

- 非同期

デスティネーションボリュームのデータがソースボリュームと同期されていません。

- 準備中

SnapMirror 転送が有効になっています。現在 SnapVault 増分転送の転送前のフェーズです。

- キューに登録され

SnapMirror 転送が有効になっています。実行中の転送はありません。

- 休止中です

SnapMirror 転送が無効になっています。実行中の転送はありません。

- 休止中です

SnapMirror 転送を実行中です。追加の転送は無効になります。

- 転送中です

SnapMirror 転送が有効になっており、転送を実行中です。

- 移行中

ソースボリュームからデスティネーションボリュームへの非同期のデータ転送が完了し、同期処理への移行が開始されています。

- 待機中です

SnapMirror 転送は開始されましたが、一部の関連タスクのキュー登録を待っています。

- 最大転送速度

関係の最大転送速度が表示されます。最大転送速度は、1 秒あたりのキロバイト数（Kbps）、1 秒あたりのメガバイト数（Mbps）、1 秒あたりのギガバイト数（Gbps）、1 秒あたりのテラバイト数（Tbps）のいずれかで示されます。関係間のベースライン転送に制限がない場合は「無制限」と表示されます。

- SnapMirror ポリシー

ボリュームの保護ポリシーが表示されます。「DPDefault」はデフォルトの非同期ミラー保護ポリシー、「XDPSyncDefault」はデフォルトの非同期バックアップポリシー、「DPSyncDefault」はデフォルトの非同期ミラーバックアップポリシーを示します。「StrictSync」はデフォルトの厳密な同期保護ポリシー、「Sync」はデフォルトの同期ポリシーです。ポリシー名をクリックすると、そのポリシーに関連付けられた詳細について次の情報を確認できます。

- 転送の優先順位

- アクセス時間の設定を無視します

- 最大試行回数

- コメント
- SnapMirror ラベル
- 保持設定
- 実際の Snapshot コピー
- Snapshot コピーを保持
- 保持の警告のしきい値
- ソースがデータ保護（DP）ボリュームであるカスケード SnapVault 関係に保持設定がない Snapshot コピーには、「s_created」ルールのみが適用されます。

◦ スケジュールを更新します

関係に割り当てられている SnapMirror スケジュールが表示されます。情報アイコンにカーソルを合わせるとスケジュールの詳細が表示されます。

◦ ローカル Snapshot ポリシー

ボリュームの Snapshot コピーポリシーが表示されます。「デフォルト」、「なし」、またはカスタムポリシーの名前のいずれかです。

◦ で保護されます

選択したボリュームで使用されている保護のタイプが表示されます。このフィールドには、Storage VMディザスタリカバリ関係が設定された関係ページにリダイレクトするリンクも表示されます。このリンクは、コンスティチュエント関係にのみ適用されます。


• * ビュー *

選択したボリュームの保護トポロジが表示されます。トポロジには、選択したボリュームに関連するすべてのボリュームが図で示されます。選択したボリュームはダークグレーの線で囲んで示され、トポロジ内のボリュームをつなぐ線は保護関係のタイプを示しています。トポロジ内の関係の方向は左から右に、各関係の左側がソースで右側がデスティネーションです。

太線の二重線は非同期ミラー関係、太線の一重線は非同期バックアップ関係、細線の二重線は非同期ミラーバックアップ関係、太線と太線でない線は同期関係です。下の表に、同期関係が StrictSync であるか Sync であるかが示されます。

ボリュームを右クリックするとメニューが表示され、ボリュームの保護とデータのリストアのどちらかを選択できます。関係を右クリックすると、編集、中止、休止、解除、削除のいずれかを選択できるメニューが表示されます。関係を再開することもできます。

このメニューは、次の場合は表示されません。

- RBAC の設定で許可されていない場合：オペレータの権限しかない場合など
- ボリュームが同期保護関係にある場合
- ボリューム ID が不明な場合：クラスター間関係が確立されているがデスティネーションクラスターが検出されていない場合、トポロジ内の別のボリュームをクリックすると、そのボリュームの情報が表示されます。疑問符（）をクリックします。ボリュームが見つからないか、まだ検出されていません。容量情報が見つからないことを示している場合もあります。疑問符にカーソルを合わせると、推奨される対応策などの追加情報が表示されます。

トポロジがいくつかある一般的なトポロジテンプレートのいずれかに一致している場合、ボリュームの容量、遅延、Snapshot コピー、および前回成功したデータ転送に関する情報が表示されます。いずれのテンプレートにも一致していない場合は、ボリュームの遅延と前回成功したデータ転送に関する情報がトポロジの下に関係テーブルに表示されます。その場合、選択したボリュームの行が強調表示され、トポロジビューには、選択したボリュームとそのソースボリュームの間の関係が太線と青色の点で示されます。

トポロジビューには次の情報が表示されます。


- 容量

ボリュームで使用されている合計容量が表示されます。トポロジ内のボリュームにカーソルを合わせると、そのボリュームの現在の警告および重大のしきい値設定が Current Threshold Settings ダイアログボックスに表示されます。現在のしきい値設定ダイアログボックスのしきい値編集リンクをクリックして、しきい値設定を編集することもできます。容量 * チェックボックスを選択解除すると、トポロジ内のすべてのボリュームについてのすべての容量情報が非表示になります。

- 遅延

受信保護関係の遅延時間と遅延ステータスが表示されます。* LAG * チェックボックスをオフにすると、トポロジ内のすべてのボリュームの遅延情報が非表示になります。* LAG * チェックボックスがグレー表示になっている場合、選択したボリュームの遅延情報がトポロジの下に関係テーブルに表示され、関連するすべてのボリュームの遅延情報も表示されます。

- スナップショット

ボリュームで使用できる Snapshot コピーの数が表示されます。* Snapshot * チェック・ボックスを選択解除すると、トポロジ内のすべてのボリュームについて、すべての Snapshot コピー情報が非表示になります。Snapshot コピーのアイコン () ボリュームの Snapshot コピーリストが表示されます。アイコンの横に表示される Snapshot コピー数の更新は約 1 時間ごとですが、Snapshot コピーのリストはアイコンをクリックした時点で更新されます。そのため、トポロジに表示される Snapshot コピー数とアイコンをクリックしたときに表示される Snapshot コピーの数は一致しないことがあります。

- 前回成功した転送

前回成功したデータ転送の量、期間、時刻、および日付が表示されます。前回成功した転送 * (Last Successful Transfer) チェックボックスがグレー表示されている場合、選択したボリュームについて成功した最後の転送情報がトポロジの下に関係テーブルに表示され、関連するすべてのボリュームについて前回成功した転送情報も表示されます。

- * 履歴 *

選択したボリュームの SnapMirror および SnapVault の受信保護関係の履歴がグラフで表示されます。履歴グラフには、受信関係の遅延時間、受信関係の転送時間、および受信関係の転送サイズの3種類があります。履歴情報は、デスティネーションボリュームを選択した場合にのみ表示されます。プライマリボリュームを選択した場合、空のグラフとメッセージが表示されます No data found が表示されます

履歴ペインの上部にあるドロップダウンリストからグラフタイプを選択できます。1 週間、1 カ月、または 1 年のいずれかを選択して、特定の期間の詳細を表示することもできます。履歴グラフは傾向を確認するのに役立ちます。たとえば、毎日または毎週同じ時間に大量のデータが転送されている場合や、遅延警告または遅延エラーのしきい値を継続的に超過している場合は、適切な措置を講じることができます。また、[* エクスポート *] ボタンをクリックして、表示しているチャートの CSV 形式でレポートを作成することもできます。

保護の履歴グラフには次の情報が表示されます。

• * 関係遅延時間 *

縦軸（y 軸）には秒、分、または時間が表示され、横軸（x 軸）には選択した期間（日数、月数、または年数）が表示されます。y 軸の最大値は x 軸の期間における最大遅延時間を示しています。オレンジ色の線は遅延エラーのしきい値、黄色の線は遅延警告のしきい値を示しています。これらの線にカーソルを合わせると、しきい値の設定が表示されます。青色の線は遅延時間を示しています。グラフの特定のポイントにカーソルを合わせると、その時点の詳細を確認できます。

• * 関係の転送時間 *

縦軸（y 軸）には秒、分、または時間が表示され、横軸（x 軸）には選択した期間（日数、月数、または年数）が表示されます。y 軸の最大値は x 軸の期間における最大転送時間を示しています。グラフの特定のポイントにカーソルを合わせると、その時点の詳細を確認できます。



このグラフは、同期保護関係にあるボリュームについては表示されません。

• * 関係転送サイズ *

縦軸（y 軸）には転送サイズ（バイト、KB、MB）が、横軸（x 軸）には選択した期間（日数、月数、または年数）が表示されます。y 軸の最大値は x 軸の期間における最大転送サイズを示しています。グラフの特定のポイントにカーソルを合わせると、その時点の詳細を確認できます。



このグラフは、同期保護関係にあるボリュームについては表示されません。

履歴領域

履歴領域には、選択したボリュームの容量とスペースリザーベーションに関する情報を示すグラフが表示されます。また、[* エクスポート *] ボタンをクリックして、表示しているチャートの CSV 形式でレポートを作成することもできます。

グラフが空になっている場合や、というメッセージが表示されること No data found 一定期間データまたはボリュームの状態に変化がない場合に表示されます。

履歴ペインの上部にあるドロップダウンリストからグラフタイプを選択できます。1 週間、1 カ月、または 1 年のいずれかを選択して、特定の期間の詳細を表示することもできます。履歴グラフは傾向を確認するのに役立ちます。たとえば、ボリュームの使用量が継続的に「ほぼフル」のしきい値を超えていれば、それに応じた措置を講じることができます。

履歴グラフには次の情報が表示されます。

• * 使用容量 *

折れ線グラフの形式で、ボリュームの使用容量（バイト、KB、MB など）とボリュームの容量の使用履歴に基づく使用状況が縦軸（y 軸）に表示されます。横軸（x 軸）に期間が表示されます。期間は、1 週間、1 カ月、または 1 年のいずれかを選択できます。グラフの特定のポイントにカーソルを合わせると、その時点の詳細を確認できます。対応する凡例をクリックして、折れ線グラフの表示と非表示を切り替えることができます。たとえば、Volume Used Capacity の凡例をクリックすると、Volume Used Capacity のグラフの線が非表示になります。

- * ボリューム - 使用容量と合計容量 *

折れ線グラフの形式で、ボリュームの容量の使用履歴に基づく使用状況と使用済み容量、合計容量、および重複排除や圧縮によるスペース削減量（バイト、KB、MB）が表示されます。垂直（y）軸など。横軸（x 軸）に期間が表示されます。期間は、1 週間、1 カ月、または 1 年のいずれかを選択できます。グラフの特定のポイントにカーソルを合わせると、その時点の詳細を確認できます。対応する凡例をクリックして、折れ線グラフの表示と非表示を切り替えることができます。たとえば、「使用済みトレンド容量」の凡例をクリックすると、「使用済みトレンド容量」のグラフ行が非表示になります。

- * 使用容量（%） *

折れ線グラフの形式で、ボリュームの使用率とボリュームの容量の使用履歴に基づく使用状況が縦軸（y 軸）に表示されます。横軸（x 軸）に期間が表示されます。期間は、1 週間、1 カ月、または 1 年のいずれかを選択できます。グラフの特定のポイントにカーソルを合わせると、その時点の詳細を確認できます。対応する凡例をクリックして、折れ線グラフの表示と非表示を切り替えることができます。たとえば、Volume Used Capacity の凡例をクリックすると、Volume Used Capacity のグラフの線が非表示になります。

- * Snapshot の使用容量（%） *

面積グラフの形式で、Snapshot リザーブと Snapshot の警告しきい値、および Snapshot コピーに使用されている容量の割合が縦軸（y 軸）に表示されます。Snapshot オーバーフローは別の色で示されます。横軸（x 軸）に期間が表示されます。期間は、1 週間、1 カ月、または 1 年のいずれかを選択できます。グラフの特定のポイントにカーソルを合わせると、その時点の詳細を確認できます。対応する凡例をクリックして、折れ線グラフの表示と非表示を切り替えることができます。たとえば、Snapshot Reserve の凡例をクリックすると、Snapshot Reserve のグラフの線が非表示になります。

イベントのリスト

イベントリストには、新規イベントと確認済みイベントに関する詳細が表示されます。

- * 重大度 *

イベントの重大度が表示されます。

- * イベント *

イベント名が表示されます。

- * トリガー日時 *

イベントが生成されてからの経過時間が表示されます。1 週間を過ぎたイベントには、生成時のタイムスタンプが表示されます。

[関連注釈（ Related Annotations ）] パネル

関連するアノテーションペインでは、選択したボリュームに関連付けられているアノテーションの詳細を確認できます。これには、ボリュームに適用されるアノテーションの名前と値などの情報が含まれます。関連するアノテーションペインから手動アノテーションを削除することもできます。

Related Devices ペイン

Related Devices ペインでは、ボリュームに関連する SVM、アグリゲート、qtree、LUN、および Snapshot コピーを表示し、それらの場所に移動できます。

- * Storage Virtual Machine *

選択したボリュームが含まれる SVM の容量と健全性ステータスが表示されます。

- * 集計 *

選択したボリュームが含まれるアグリゲートの容量と健全性ステータスが表示されます。FlexGroup ボリュームの場合は、FlexGroup を構成するアグリゲートの数が表示されます。

- * アグリゲート内のボリューム *

選択したボリュームの親アグリゲートに属するすべてのボリュームの数と容量が表示されます。最も高い重大度レベルに基づいて、ボリュームの健全性ステータスも表示されます。たとえば、アグリゲートに 10 個のボリュームがあり、5 つのステータスが「警告」で残りの 5 つが「重大」の場合、ステータスは「重大」と表示されます。このコンポーネントは、FlexGroup ボリュームに対しては表示されません。

- * qtree *

選択したボリュームに含まれる qtree の数と、クォータが適用された qtree の容量が表示されます。クォータが適用された qtree の容量はボリュームのデータ容量に対する割合で表示されます。最も高い重大度レベルに基づいて、qtree の健全性ステータスも表示されます。たとえば、ボリュームに 10 個の qtree があり、5 つのステータスが「警告」で残りの 5 つが「重大」の場合、ステータスは「重大」と表示されます。

- * NFS 共有 *

ボリュームに関連付けられている NFS 共有の数とステータスが表示されます。

- * SMB 共有 *

SMB/CIFS 共有の数とステータスが表示されます。

- * LUN*

選択したボリューム内のすべての LUN の数と合計サイズが表示されます。最も高い重大度レベルに基づいて、LUN の健全性ステータスも表示されます。

- * ユーザー・クォータとグループ・クォータ *

ボリュームとその qtree に関連付けられているユーザおよびユーザグループクォータの数とステータスが表示されます。

- * FlexClone ボリューム *

選択したボリュームのすべてのクローンボリュームの数と容量が表示されます。選択したボリュームにクローンボリュームが含まれている場合にのみ表示されます。

- * 親ボリューム *

選択した FlexClone ボリュームの親ボリュームの名前と容量が表示されます。選択したボリュームが FlexClone ボリュームの場合にのみ表示されます。

【関連グループ】ペイン

Related Groups ペインでは、選択したボリュームに関連付けられているグループのリストを確認できます。

【関連アラート】ペイン

関連するアラートペインでは、選択したボリュームに対して作成されたアラートのリストを表示できます。また、[Add Alert] リンクをクリックしてアラートを追加したり、アラート名をクリックして既存のアラートを編集したりすることもできます。

Storage VM / 健全性の詳細ページ

Storage VM / 健全性の詳細ページでは、選択した Storage VM について、健全性、容量、構成、データポリシー、論理インターフェイス（LIF）、LUN、qtree、ユーザ、ユーザグループクォータ、および保護の詳細Storage VM に関連するオブジェクトやアラートに関する情報も確認できます。



監視できるのはデータ Storage VM だけです。

コマンドボタン

選択した Storage VM について、各コマンドボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- * パフォーマンスビューに切り替え *

Storage VM / パフォーマンスの詳細ページに移動できます。

- * アクション *

- アラートを追加します

選択した Storage VM にアラートを追加できます。

- 注釈

選択した Storage VM をアノテートできます。

- * Storage VM* を表示します

健全性：すべての Storage VM ビューに移動できます。

正常性タブ

Health タブには、ボリューム、アグリゲート、NAS LIF、SAN LIF、LUN などのさまざまなオブジェクトのデータ可用性、データ容量、および保護の問題に関する詳細な情報が表示されます。 プロトコル、サービス、NFS 共有、および CIFS 共有

オブジェクトのグラフをクリックすると、フィルタリングされたオブジェクトのリストを表示できます。たとえば、警告が表示されたボリュームの容量のグラフをクリックすると、重大度が「警告」の容量の問題があるボリュームのリストが表示されます。

- * 可用性の問題 *

可用性の問題があるオブジェクトとないオブジェクトの両方を含むオブジェクトの合計数がグラフで表示されます。グラフでは、問題の重大度レベルに応じて色が表示されます。グラフの下には、Storage VM 内のデータの可用性に影響を及ぼす可能性がある問題とすでに影響を及ぼしている問題に関する詳細が表示されます。たとえば、停止している NAS LIF および SAN LIF やオフラインになっているボリュームの情報が表示されます。

現在実行中の関連するプロトコルやサービスに関する情報のほか、NFS 共有や CIFS 共有の数とステータスも確認できます。

- * 容量の問題 *

容量の問題があるオブジェクトとないオブジェクトの両方を含むオブジェクトの合計数がグラフで表示されます。グラフでは、問題の重大度レベルに応じて色が表示されます。グラフの下には、Storage VM 内のデータの容量に影響を及ぼす可能性がある問題とすでに影響を及ぼしている問題に関する詳細が表示されます。たとえば、設定されたしきい値を超える可能性があるアグリゲートの情報が表示されます。

- * 保護の問題 *

Storage VM の保護関連の健全性に関する概要情報として、フィールドのダイアログボックスに保護の問題がある関係とない関係を含む関係の合計数が表示されます。選択した Storage VM の Storage VM DR 関係のステータスも確認できます。Storage VM DR 関係のイベントが表示されます。イベントをクリックすると、イベントの詳細ページが表示されます。保護されていないボリュームがある場合は、リンクをクリックすると Health : All Volumes ビューに移動し、Storage VM にある保護されていないボリュームのフィルタリングされたリストを確認できます。グラフでは、問題の重大度レベルに応じて色が表示されます。グラフをクリックすると、Relationship : All Relationships ビューに移動します。このビューでは、保護関係の詳細のフィルタリングされたリストを確認できます。グラフの下には、Storage VM 内のデータの保護に影響を及ぼす可能性がある問題とすでに影響を及ぼしている問題に関する詳細が表示されます。たとえば、Snapshot コピーリザーブがほぼフルのボリュームに関する情報や、SnapMirror 関係の遅延の問題に関する情報が表示されます。

Capacity（容量）タブ

容量タブには、選択した SVM のデータ容量に関する詳細情報が表示されます。

FlexVol ボリュームまたは FlexGroup ボリュームを備えた Storage VM については、次の情報が表示されます。

- * 容量 *

容量領域には、すべてのボリュームから割り当てられている使用済み容量と使用可能容量に関する詳細が表示されます。

- 合計容量

Storage VM の合計容量が表示されます。

- 使用済み

Storage VM に属するボリュームでデータに使用されているスペースが表示されます。

- 保証あり - 利用可能

Storage VM 内のボリュームで使用可能な保証済みのデータ用スペースが表示されます。

- 保証なし

Storage VM 内のシンプロビジョニングボリュームに割り当てられている、データに使用可能な残りのスペースが表示されます。

- * 容量に問題があるボリューム *

容量に問題があるボリュームのリストが、容量の問題があるボリュームに関する詳細情報が表形式で表示されます。

- ステータス

ボリュームに、容量関連のある問題が指定された重大度であることを示します。

ステータスにカーソルを合わせると、ボリュームに対して生成された容量関連のイベントに関する詳細を確認できます。

ボリュームのステータスが単一のイベントに基づく場合は、イベントの名前、イベントがトリガーされた日時、イベントが割り当てられている管理者の名前、イベントの原因などの情報が表示されます。イベントの詳細情報を表示するには、* 詳細を表示 * ボタンを使用します。

ボリュームのステータスが同じ重大度の複数のイベントに基づく場合は、上位の 3 つのイベントについて、イベントの名前、イベントがトリガーされた日時、イベントが割り当てられている管理者の名前などの情報が表示されます。イベント名をクリックすると、それらの各イベントの詳細を確認できます。また、「* すべてのイベントを表示 *」リンクをクリックして、生成されたイベントのリストを表示することもできます。



ボリュームには、重大度が同じまたは異なる容量関連のイベントが複数ある場合もあります。ただし、表示されるのは最も高い重大度だけです。たとえば、重大度が「エラー」と「警告」の 2 つのイベントがボリュームにある場合、表示される重大度は「エラー」だけです。

- ボリューム

ボリュームの名前が表示されます。

- 使用済みデータ容量

ボリュームの容量の使用率に関する情報がグラフで表示されます。

- フルまでの日数

ボリュームの容量がフルに達するまでの推定日数が表示されます。

- シンプロビジョニング

選択したボリュームにスペースギャランティが設定されているかどうかが表示されます。有効な値

は「はい」と「いいえ」です

- アグリゲート

FlexVol ボリュームの場合は、ボリュームが含まれているアグリゲートの名前が表示されます。FlexGroup ボリュームの場合、FlexGroup で使用されているアグリゲートの数が表示されます。

【構成】タブ

Configuration タブには、選択した Storage VM の設定に関する詳細が表示されます。これには、Storage VM に作成されたクラスタ、ルートボリューム、ボリュームのタイプ（FlexVol ボリューム）、ポリシー、保護などの情報が含まれます。

- * 概要 *

- クラスタ

Storage VM が属するクラスタの名前が表示されます。

- 使用できるボリュームタイプ

Storage VM で作成できるボリュームのタイプが表示されます。「FlexVol」または「FlexVol/FlexGroup」のいずれかです。

- ルートボリューム

Storage VM のルートボリュームの名前が表示されます。

- 許可するプロトコル

Storage VM で設定できるプロトコルのタイプが表示されます。また、プロトコルが稼働しているかどうかを示します（●）、Down（●）、またはが設定されていない（●）。

- * データ・ネットワーク・インターフェイス *

- NAS

Storage VM に関連付けられている NAS インターフェイスの数が表示されます。インターフェイスの状態（●）または down（●）。

- SAN

Storage VM に関連付けられている SAN インターフェイスの数が表示されます。インターフェイスの状態（●）または down（●）。

- FC-NVMe

Storage VM に関連付けられている FC-NVMe インターフェイスの数が表示されます。インターフェイスの状態（●）または down（●）。

- * 管理ネットワーク・インターフェイス *

- 可用性

Storage VM に関連付けられている管理インターフェイスの数が表示されます。管理インターフェイスの状態 (●) または down (●)。

- * ポリシー *

- Snapshot

Storage VM に作成された Snapshot ポリシーの名前が表示されます。

- エクスポートポリシー

エクスポートポリシーが 1 つ作成されている場合はその名前が表示され、複数作成されている場合はその数が表示されます。

- * 保護 *

- Storage VM DR

選択した Storage VM が保護されているかどうか、デスティネーションが保護されていないか、および Storage VM が保護されているデスティネーションの名前が表示されます。選択した Storage VM がデスティネーションの場合、ソース Storage VM の詳細が表示されます。ファンアウトの場合、Storage VM が保護されているデスティネーション Storage VM の合計数が表示されます。ソース Storage VM でフィルタされた Storage VM 関係グリッドが表示されます。

- 保護されているボリューム

選択した Storage VM 上の保護されているボリュームのうち、合計ボリューム数から外れているボリュームの数が表示されます。デスティネーション Storage VM を表示している場合は、選択した Storage VM のデスティネーションボリュームの番号のリンクです。

- 保護されていないボリューム

選択した Storage VM の保護されていないボリュームの数が表示されます。

- * サービス *

- を入力します

Storage VM で設定されているサービスのタイプが表示されます。「Domain Name System (DNS ; ドメインネームシステム)」または「Network Information Service (NIS)」のいずれかです。

- 状態

サービスの状態が表示されます。up (●)、Down (●)、または設定されていない (●)。

- ドメイン名 (Domain Name)

DNS サービスの DNS サーバまたは NIS サービスの NIS サーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) が表示されます。NIS サーバが有効になっている場合は、アクティブな NIS サーバの FQDN が表示されます。NIS サーバが無効になっている場合は、すべての FQDN のリストが表示されます。

- IP アドレス

DNS サーバまたは NIS サーバの IP アドレスが表示されます。NIS サーバが有効になっている場合は、アクティブな NIS サーバの IP アドレスが表示されます。NIS サーバが無効になっている場合は、

すべての IP アドレスのリストが表示されます。

Network Interfaces タブをクリックします

ネットワークインターフェイスタブには、選択した Storage VM に作成されているデータネットワークインターフェイス（LIF）に関する詳細が表示されます。

- * ネットワーク・インターフェイス *

選択した Storage VM に作成されているインターフェイスの名前が表示されます。

- * 動作ステータス *

インターフェイスの動作ステータスが表示されます。up (↑)、Down (↓)、または Unknown (?)。インターフェイスの動作ステータスは、物理ポートのステータスで決まります。

- * 管理ステータス *

インターフェイスの管理ステータスが表示されます。up (↑)、Down (↓)、または Unknown (?)。インターフェイスの管理ステータスは、設定への変更やメンテナンスを実施するために、ストレージ管理者が変更します。管理ステータスは、動作ステータスとは異なる場合があります。ただし、インターフェイスの管理ステータスが「停止」の場合、動作ステータスはデフォルトで「停止」になります。

- * IP アドレス / WWPN *

イーサネットインターフェイスの IP アドレスと FC LIF の World Wide Port Name（WWPN）が表示されます。

- * プロトコル *

CIFS、NFS、iSCSI、FC / FCoE など、インターフェイスに対して指定されているデータプロトコルのリストが表示されます。FC-NVMe、および FlexCache が必要です。

- * 役割 *

インターフェイスのロールが表示されます。「データ」または「管理」のいずれかです。

- * ホームポート *

インターフェイスが最初に関連付けられていた物理ポートが表示されます。

- * 現在のポート *

インターフェイスが現在関連付けられている物理ポートが表示されます。インターフェイスが移行された場合、現在のポートがホームポートと同じでなくなることがあります。

- * ポートセット *

インターフェイスがマッピングされているポートセットが表示されます。

- * フェイルオーバーポリシー *

インターフェイスに設定されているフェイルオーバーポリシーが表示されます。NFS インターフェイス、CIFS インターフェイス、および FlexCache インターフェイスの場合、デフォルトのフェイルオーバーポリシーは「次に使用可能」です。FC インターフェイスおよび iSCSI インターフェイスには、フェイルオーバーポリシーは適用できません。

- * ルーティンググループ *

ルーティンググループの名前が表示されます。ルーティンググループ名をクリックすると、ルートとデスティネーションゲートウェイに関する詳細を確認できます。

ルーティンググループは ONTAP 8.3 以降ではサポートされないため、それらのクラスタの列は空白になります。

- * フェイルオーバーグループ *

フェイルオーバーグループの名前が表示されます。

Qtrees （ qtree ） タブ

qtree タブには、qtree とそのクォータに関する詳細が表示されます。1 つ以上の qtree の容量の健全性しきい値の設定を編集するには、しきい値の編集 * ボタンをクリックします。

カンマ区切りの値を作成するには、* Export * ボタンを使用します (.csv) 監視対象のすべての qtree の詳細を含むファイル。CSV ファイルにエクスポートして qtree のレポートを作成する際は、現在の Storage VM、現在のクラスタのすべての Storage VM、またはデータセンター内のすべてのクラスタのすべての Storage VM について、のいずれかを選択できます。エクスポートした CSV ファイルには、qtree に関する追加のフィールドもいくつか表示されます。

- * ステータス *

qtree の現在のステータスが表示されます。ステータスは Critical (❌)、エラー (❗)、警告 (⚠️)、または標準 (✅)。

ステータスアイコンにカーソルを合わせると、qtree に対して生成されたイベントに関する詳細を確認できます。

qtree のステータスが単一のイベントに基づく場合は、イベントの名前、イベントがトリガーされた日時、イベントが割り当てられている管理者の名前、イベントの原因などの情報が表示されます。イベントの詳細情報を表示するには、* View Details * を使用します。

qtree のステータスが同じ重大度の複数のイベントに基づく場合は、上位の 3 つのイベントについて、イベントの名前、イベントがトリガーされた日時、イベントが割り当てられている管理者の名前などの情報が表示されます。イベント名をクリックすると、それらの各イベントの詳細を確認できます。また、* すべてのイベントを表示 * を使用して、生成されたイベントのリストを表示することもできます。



qtree には、重大度が同じまたは異なる容量関連のイベントが複数ある場合もあります。ただし、表示されるのは最も高い重大度だけです。たとえば、重大度が「エラー」と「警告」の 2 つのイベントが qtree にある場合、表示される重大度は「エラー」だけです。

- * qtree *

qtree の名前が表示されます。

- * クラスタ *

qtree を含むクラスタの名前が表示されます。エクスポートした CSV ファイルにのみ表示されます。

- * Storage Virtual Machine *

qtree を含む Storage Virtual Machine （ SVM ） の名前が表示されます。エクスポートした CSV ファイルにのみ表示されます。

- * 音量 *

qtree が含まれているボリュームの名前が表示されます。

ボリューム名にカーソルを合わせると、ボリュームに関する詳細を確認できます。

- * クォータセット *

qtree でクォータが有効になっているかどうかを示します。

- * クォータタイプ *

ユーザ、ユーザグループ、または qtree のいずれのクォータであるかを示します。エクスポートした CSV ファイルにのみ表示されます。

- * ユーザーまたはグループ *

ユーザまたはユーザグループの名前が表示されます。ユーザおよびユーザグループごとに複数の行が表示されます。クォータのタイプが qtree の場合やクォータが設定されていない場合は空になります。エクスポートした CSV ファイルにのみ表示されます。

- * 使用ディスク % *

ディスクスペースの使用率が表示されます。ディスクのハードリミットが設定されている場合は、そのハードリミットに基づく値です。ディスクのハードリミットなしでクォータが設定されている場合は、ボリュームのデータスペースに基づきます。クォータが設定されていない場合や qtree が属するボリュームでクォータがオフになっている場合は、グリッドページに「該当なし」と表示され、CSV エクスポートデータではフィールドが空白になります。

- * ディスクハードリミット *

qtree に対するディスクスペースの最大割り当て容量が表示されます。この上限に達すると、Unified Manager で重大なイベントが生成され、ディスクへの書き込みがそれ以上許可されなくなります。ディスクのハードリミットなしでクォータが設定されている場合、クォータが設定されていない場合、または qtree が属するボリュームでクォータがオフになっている場合は、「無制限」と表示されます。

- * ディスクソフトリミット *

qtree に対するディスクスペースの割り当て容量について、警告イベントを生成する容量が表示されます。ディスクのソフトリミットなしでクォータが設定されている場合、クォータが設定されていない場合、または qtree が属するボリュームでクォータがオフになっている場合は、「無制限」と表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- * ディスクしきい値 *

ディスクスペースについて設定されているしきい値が表示されます。ディスクのしきい値の制限なしでクォータが設定されている場合、クォータが設定されていない場合、または qtree が属するボリュームでクォータがオフになっている場合は、「無制限」と表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- * 使用されているファイル数 % *

qtree で使用されているファイルの割合が表示されます。ファイルのハードリミットが設定されている場合は、そのハードリミットに基づく値です。ファイルのハードリミットなしでクォータが設定されている場合は、値は表示されません。クォータが設定されていない場合や qtree が属するボリュームでクォータがオフになっている場合は、グリッドページに「該当なし」と表示され、CSV エクスポートデータではフィールドが空白になります。

- * ファイルハードリミット *

qtree に許可されるファイル数のハードリミットが表示されます。ファイルのハードリミットなしでクォータが設定されている場合、クォータが設定されていない場合、または qtree が属するボリュームでクォータがオフになっている場合は、「無制限」と表示されます。

- * ファイルソフトリミット *

qtree に許可されるファイル数のソフトリミットが表示されます。ファイルのソフトリミットなしでクォータが設定されている場合、クォータが設定されていない場合、または qtree が属するボリュームでクォータがオフになっている場合は、「無制限」と表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

【 ユーザークォータ 】タブと【 グループクォータ 】タブ

選択した Storage VM のユーザおよびユーザグループのクォータに関する詳細が表示されます。クォータのステータス、ユーザまたはユーザグループの名前、ディスクおよびファイルのソフトリミットとハードリミット、使用されているディスクスペースとファイル数、ディスクのしきい値などの情報を確認できます。ユーザまたはユーザグループに関連付けられている E メールアドレスを変更することもできます。

- * 電子メールアドレスの編集コマンドボタン *

E メールアドレスの編集ダイアログボックスが開き、選択したユーザまたはユーザグループの現在の E メールアドレスが表示されます。E メールアドレスを変更することができます。[メールアドレスの編集] フィールドが空白の場合、デフォルトルールを使用して、選択したユーザまたはユーザグループのメールアドレスが生成されます。

複数のユーザが同じクォータを使用する場合は、ユーザの名前がカンマで区切って表示されます。また、デフォルトのルールを使用して E メールアドレスが生成されることはないため、通知を送信するには E メールアドレスを指定する必要があります。

- * 電子メールルールの設定コマンドボタン *

Storage VM で設定されているユーザまたはユーザグループクォータについて、E メールアドレスを生成するルールを作成または変更できます。クォータに違反が発生すると、指定した E メールアドレスに通知が送信されます。

- * ステータス *

クォータの現在のステータスが表示されます。ステータスは Critical (❌)、警告 (⚠️)、または標準

()。

ステータスアイコンにカーソルを合わせると、クォータに対して生成されたイベントに関する詳細を確認できます。

クォータのステータスが単一のイベントに基づく場合は、イベントの名前、イベントがトリガーされた日時、イベントが割り当てられている管理者の名前、イベントの原因などの情報が表示されます。イベントの詳細情報を表示するには、* View Details * を使用します。

クォータのステータスが同じ重大度の複数のイベントに基づく場合は、上位の 3 つのイベントについて、イベントの名前、イベントがトリガーされた日時、イベントが割り当てられている管理者の名前などの情報が表示されます。イベント名をクリックすると、それらの各イベントの詳細を確認できます。また、* すべてのイベントを表示 * を使用して、生成されたイベントのリストを表示することもできます。



クォータには、重大度が同じまたは異なる容量関連のイベントが複数ある場合もあります。ただし、表示されるのは最も高い重大度だけです。たとえば、重大度が「エラー」と「警告」の 2 つのイベントがクォータにある場合、表示される重大度は「エラー」だけです。

- * ユーザーまたはグループ *

ユーザまたはユーザグループの名前が表示されます。複数のユーザが同じクォータを使用する場合は、ユーザの名前がカンマで区切って表示されます。

SecD のエラーによって ONTAP から有効なユーザ名が提供されない場合、値は「Unknown」と表示されます。

- * タイプ *

ユーザまたはユーザグループのどちらのクォータであるかを示します。

- * ボリュームまたは qtree *

ユーザまたはユーザグループのクォータが指定されているボリュームまたは qtree の名前が表示されます。

ボリュームまたは qtree の名前にカーソルを合わせると、そのボリュームまたは qtree に関する詳細を確認できます。

- * 使用ディスク %*

ディスクスペースの使用率が表示されます。ディスクのハードリミットなしでクォータが設定されている場合は、値は「該当なし」と表示されます。

- * ディスクハードリミット *

クォータに対するディスクスペースの最大割り当て容量が表示されます。この上限に達すると、Unified Manager で重大なイベントが生成され、ディスクへの書き込みがそれ以上許可されなくなります。ディスクのハードリミットなしでクォータが設定されている場合は、値は「無制限」と表示されます。

- * ディスクソフトリミット *

クォータに対するディスクスペースの割り当て容量について、警告イベントを生成する容量が表示されま

す。ディスクのソフトリミットなしでクォータが設定されている場合は、値は「無制限」と表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- * ディスクしきい値 *

ディスクスペースについて設定されているしきい値が表示されます。ディスクのしきい値制限なしでクォータが設定されている場合は、値は「無制限」と表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- * 使用されているファイル数 %*

qtree で使用されているファイルの割合が表示されます。ファイルのハードリミットなしでクォータが設定されている場合は、値は「該当なし」と表示されます。

- * ファイルハードリミット *

クォータに許可されるファイル数のハードリミットが表示されます。ファイルのハードリミットなしでクォータが設定されている場合は、値は「無制限」と表示されます。

- * ファイルソフトリミット *

クォータに許可されるファイル数のソフトリミットが表示されます。ファイルのソフトリミットなしでクォータが設定されている場合は、値は「無制限」と表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- * 電子メールアドレス *

クォータに違反が発生した場合に通知が送信されるユーザまたはユーザグループの E メールアドレスが表示されます。

NFS Shares （NFS 共有）タブ

NFS 共有タブには、NFS 共有について、ステータス、ボリューム（FlexGroup または FlexVol ボリューム）に関連付けられたパス、NFS 共有に対するクライアントのアクセスレベル、エクスポートされているボリュームに対して定義されているエクスポートポリシーなどの情報が表示されます。NFS 共有は、ボリュームがマウントされていない場合、またはボリュームのエクスポートポリシーに関連付けられているプロトコルに NFS 共有が含まれていない場合は表示されません。

- * ステータス *

NFS 共有の現在のステータスが表示されます。ステータスは、Error (🚫) または標準 (✅)。

- * ジャンクションパス *

ボリュームがマウントされているパスが表示されます。qtree に明示的な NFS エクスポートポリシーが適用されている場合、qtree にアクセスできるボリュームのパスが表示されます。

- * ジャンクションパスがアクティブ *

マウントされたボリュームにアクセスするパスがアクティブであるか非アクティブであるかが表示されます。

- * ボリュームまたは qtree *

NFS エクスポートポリシーが適用されているボリュームまたは qtree の名前が表示されます。NFS エクスポートポリシーがボリューム内の qtree に適用されている場合は、ボリュームと qtree の両方の名前が表示されます。

リンクをクリックすると、オブジェクトに関する詳細を対応する詳細ページで確認できます。オブジェクトが qtree の場合、qtree とボリュームの両方のリンクが表示されます。

- * ボリュームの状態 *

エクスポートされるボリュームの状態が表示されます。「オフライン」、「オンライン」、「制限」、「混在」のいずれかです。

- オフラインです

ボリュームへの読み取り / 書き込みアクセスが許可されていません。

- オンライン

ボリュームへの読み取り / 書き込みアクセスが許可されています。

- 制限

パリティの再構築などの一部の処理は許可されますが、データアクセスは許可されません。

- 混在

FlexGroup ボリュームに状態の異なるコンスティチュエントが混在しています。

- * セキュリティ形式 *

エクスポートされているボリュームのアクセス権限が表示されます。セキュリティ形式には、UNIX、Unified、NTFS、Mixed があります。

- UNIX（NFS クライアント）

ボリューム内のファイルおよびディレクトリに UNIX 権限が設定されています。

- 統合：

ボリューム内のファイルおよびディレクトリに unified セキュリティ形式が設定されています。

- NTFS（CIFS クライアント）

ボリューム内のファイルおよびディレクトリに Windows NTFS 権限が設定されています。

- 混在

ボリューム内のファイルおよびディレクトリに UNIX 権限または Windows NTFS 権限のどちらかを設定できます。

- * UNIX 権限 *

エクスポートされるボリュームに設定されている 8 進数の文字列形式の UNIX 権限ビットが表示されま

す。UNIX 形式の権限ビットと同様の形式です。

- * エクスポートポリシー *

エクスポートされているボリュームのアクセス権限を定義するルールが表示されます。リンクをクリックすると、エクスポートポリシーに関連付けられているルールについて、認証プロトコルやアクセス権限などの詳細を確認できます。

SMB Shares （SMB 共有）タブ

選択した Storage VM の SMB 共有に関する情報が表示されます。SMB 共有のステータス、共有名、Storage VM に関連付けられているパス、共有のジャンクションパスのステータス、コンテナオブジェクト、コンテナボリュームの状態、共有のセキュリティのデータ、共有に対して定義されているエクスポートポリシーなどの情報を参照できます。SMB 共有に相当する NFS パスが存在するかどうかを確認できます。



フォルダ内の共有は、SMB 共有タブには表示されません。

- * ユーザーマッピングの表示コマンドボタン *

[ユーザーマッピング（User Mapping）] ダイアログボックスを起動します。



Storage VM のユーザマッピングの詳細を確認できます。

- * ACL コマンドボタン * を表示します

共有の Access Control ダイアログボックスを開きます。

選択した共有のユーザおよび権限の詳細を表示できます。

- * ステータス *

共有の現在のステータスが表示されます。標準（) またはエラー（）。

- * 共有名 *

SMB 共有の名前が表示されます。

- * パス *

共有が作成されているジャンクションパスが表示されます。

- * ジャンクションパスがアクティブ *

共有にアクセスするパスがアクティブであるか非アクティブであるかが表示されます。

- * コンテナオブジェクト *

共有が属するコンテナオブジェクトの名前が表示されます。コンテナオブジェクトは、ボリュームまたは qtree のいずれかです。

リンクをクリックすると、該当する [詳細] ページでコンテナオブジェクトの詳細を表示できます。コンテナオブジェクトが qtree の場合、qtree とボリュームの両方のリンクが表示されます。

- * ボリュームの状態 *

エクスポートされるボリュームの状態が表示されます。「オフライン」、「オンライン」、「制限」、「混在」のいずれかです。

- オフラインです

ボリュームへの読み取り / 書き込みアクセスが許可されていません。

- オンライン

ボリュームへの読み取り / 書き込みアクセスが許可されています。

- 制限

パリティの再構築などの一部の処理は許可されますが、データアクセスは許可されません。

- 混在

FlexGroup ボリュームに状態の異なるコンスティチュエントが混在しています。

- * セキュリティ *

エクスポートされているボリュームのアクセス権限が表示されます。セキュリティ形式には、UNIX、Unified、NTFS、Mixed があります。

- UNIX（NFS クライアント）

ボリューム内のファイルおよびディレクトリに UNIX 権限が設定されています。

- 統合：

ボリューム内のファイルおよびディレクトリに unified セキュリティ形式が設定されています。

- NTFS（CIFS クライアント）

ボリューム内のファイルおよびディレクトリに Windows NTFS 権限が設定されています。

- 混在

ボリューム内のファイルおよびディレクトリに UNIX 権限または Windows NTFS 権限のどちらかを設定できます。

- * エクスポートポリシー *

共有に適用されているエクスポートポリシーの名前が表示されます。Storage VM にエクスポートポリシーが指定されていない場合は、「無効」と表示されます。

リンクをクリックすると、エクスポートポリシーに関連付けられているルールについて、アクセスプロトコルや権限などの詳細を確認できます。このリンクは、選択した Storage VM のエクスポートポリシーが無効になっている場合は無効になります。

- * NFS の同等機能 *

共有に NFS と同等の機能があるかどうかを示します。

SAN タブ

選択した Storage VM の LUN 、イニシエータグループ、およびイニシエータに関する詳細が表示されます。デフォルトでは、LUNs ビューが表示されます。イニシエータグループの詳細は、イニシエータグループタブで確認できます。また、イニシエータタブでイニシエータの詳細を確認できます。

• * LUNs タブ *

選択した Storage VM に属する LUN に関する詳細が表示されます。LUN の名前、LUN の状態（オンラインまたはオフライン）、LUN が含まれているファイルシステム（ボリュームまたは qtree）の名前、ホストオペレーティングシステムのタイプ、LUN の合計データ容量とシリアル番号などの情報を参照できます。LUN Performance 列には、LUN / パフォーマンスの詳細ページへのリンクが表示されます。

LUN でシンプロビジョニングが有効になっているかどうかや、LUN がイニシエータグループにマッピングされているのかも確認できます。イニシエータにマッピングされている場合は、選択した LUN にマッピングされているイニシエータグループとイニシエータを表示できます。

• * イニシエータグループタブ *

イニシエータグループに関する詳細が表示されます。イニシエータグループの名前、アクセス状態、グループ内のすべてのイニシエータで使用されているホストオペレーティングシステムのタイプ、サポートされるプロトコルなどの詳細を確認できます。アクセス状態の列のリンクをクリックすると、イニシエータグループの現在のアクセス状態を確認できます。

◦ * 標準 *

イニシエータグループは複数のアクセスパスに接続されています。

◦ * シングルパス *

イニシエータグループは単一のアクセスパスに接続されています。

◦ * パスなし *

イニシエータグループにアクセスパスが接続されていません。

イニシエータグループがすべてのインターフェイスにマッピングされているか、ポートセットを介して特定のインターフェイスにマッピングされているかを確認することができます[Mapped Interfaces] カラムのカウントリンクをクリックすると、すべてのインターフェイスが表示されるか、ポートセットの特定のインターフェイスが表示されます。ターゲットポータルを介してマッピングされているインターフェイスは表示されません。イニシエータグループにマッピングされているイニシエータと LUN の合計数が表示されます。

選択したイニシエータグループにマッピングされているLUNとイニシエータも確認できます。

• * イニシエータタブ *

選択した Storage VM のイニシエータの名前とタイプ、およびこのイニシエータにマッピングされているイニシエータグループの合計数が表示されます。

選択したイニシエータグループにマッピングされている LUN とイニシエータグループも確認できます。

【関連注釈（ Related Annotations ）】パネル

関連するアノテーションペインでは、選択した Storage VM に関連付けられているアノテーションの詳細を確認できます。これには、Storage VM に適用されるアノテーションの名前と値などの情報が含まれます。関連するアノテーションペインから手動アノテーションを削除することもできます。

Related Devices ペイン

Related Devices ペインでは、Storage VM に関連するクラスタ、アグリゲート、ボリュームを確認できます。

• * クラスタ *

Storage VM が属するクラスタの健全性ステータスが表示されます。

• * アグリゲート *

選択した Storage VM に属するアグリゲートの数が表示されます。最も高い重大度レベルに基づいて、アグリゲートの健全性ステータスも表示されます。たとえば、Storage VM に 10 個のアグリゲートがあり、5 つのステータスが「警告」で残りの 5 つが「重大」の場合、ステータスは「重大」と表示されます。

• * 割り当て済みアグリゲート *

Storage VM に割り当てられているアグリゲートの数が表示されます。最も高い重大度レベルに基づいて、アグリゲートの健全性ステータスも表示されます。

• * ボリューム *

選択した Storage VM に属するボリュームの数と容量が表示されます。最も高い重大度レベルに基づいて、ボリュームの健全性ステータスも表示されます。Storage VM に FlexGroup がある場合は、FlexGroup の数も含まれます。FlexGroup コンスティチュエントは含まれません。

【関連グループ】ペイン

Related Groups ペインでは、選択した Storage VM に関連付けられているグループのリストを確認できます。

【関連アラート】ペイン

関連するアラートペインでは、選択した Storage VM に対して作成されたアラートのリストを確認できます。また、[* アラートの追加 *] リンクをクリックしてアラートを追加したり、アラート名をクリックして既存のアラートを編集したりすることもできます。

クラスタ / 健全性の詳細ページ

クラスタ / 健全性の詳細ページには、選択したクラスタについて、健全性、容量、設定の詳細などの情報が表示されます。クラスタのネットワークインターフェイス（LIF）、ノード、ディスク、関連するデバイス、および関連するアラートに関する情報も確認できます。

クラスタ名の横にあるステータス（「問題なし」など）は通信ステータスで、Unified Manager がクラスタと通信できるかどうかを示します。クラスタのフェイルオーバーステータスや全体的なステータスを表しているわけではありません。

コマンドボタン

選択したクラスタについて、各コマンドボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- * パフォーマンスビューに切り替え *

クラスタ / パフォーマンスの詳細ページに移動できます。

- * アクション *

- アラートの追加：アラートの追加ダイアログボックスが開き、選択したクラスタにアラートを追加できます。
- 再検出：クラスタの手動更新が開始され、クラスタへの最新の変更を Unified Manager で検出できるようになります。

Unified Manager を OnCommand Workflow Automation と組み合わせて使用している場合、再検出処理には WFA のキャッシュデータがあればそれが必要です。

再検出処理が開始されると、関連付けられているジョブの詳細へのリンクが表示され、ジョブステータスを追跡できるようになります。

- アノテーションの適用：選択したクラスタをアノテートできます。

- * クラスタを表示 *

健全性：すべてのクラスタビューに移動できます。

正常性タブ

ノード、SVM、アグリゲートなどのさまざまなクラスタオブジェクトのデータ可用性とデータ容量の問題に関する詳細な情報が表示されます。可用性の問題は、クラスタオブジェクトのデータ処理機能に関連した問題です。容量の問題は、クラスタオブジェクトのデータ格納機能に関連した問題です。

オブジェクトのグラフをクリックすると、フィルタリングされたオブジェクトのリストを表示できます。たとえば、警告が表示された SVM の容量のグラフをクリックすると、フィルタリングされた SVMs のリストを表示できます。このリストには、重大度レベルが「警告」の容量の問題があるボリュームまたは qtrees を含む SVM が表示されます。また、警告が表示された SVM の可用性のグラフをクリックすると、重大度レベルが「警告」の可用性の問題がある SVM のリストが表示されます。

- * 可用性の問題 *

可用性の問題があるオブジェクトとないオブジェクトの両方を含むオブジェクトの合計数が図で表示されます。グラフでは、問題の重大度レベルに応じて色が表示されます。グラフの下には、クラスタ内のデータの可用性に影響を及ぼす可能性がある問題とすでに影響を及ぼしている問題に関する詳細が表示されます。たとえば、停止しているディスクシェルフやオフラインになっているアグリゲートの情報が表示されます。



SFO の棒グラフに表示されるデータは、ノードの HA の状態に基づきます。それ以外の棒グラフに表示されるデータは、生成されたイベントに基づいて計算されます。

• * 容量の問題 *

容量の問題があるオブジェクトとないオブジェクトの両方を含むオブジェクトの合計数が図で表示されます。グラフでは、問題の重大度レベルに応じて色が表示されます。グラフの下には、クラスタ内のデータの容量に影響を及ぼす可能性がある問題とすでに影響を及ぼしている問題に関する詳細が表示されます。たとえば、設定されたしきい値を超える可能性があるアグリゲートの情報が表示されます。

Capacity（容量）タブ

選択したクラスタの容量に関する詳細情報が表示されます。

• * 容量 *

割り当てられているすべてのアグリゲートの使用済み容量と使用可能容量を示すデータ容量のグラフが表示されます。

◦ 使用済み論理スペース

このクラスタのすべてのアグリゲートに格納されているデータの実際のサイズ。ONTAP の Storage Efficiency テクノロジーによる削減を適用する前のサイズです。

◦ 使用済み

すべてのアグリゲート上のデータに使用されている物理容量。これには、パリティ、ライトサイジング、リザーベーション用に使用される容量は含まれません。

◦ 利用可能

データに使用できる容量が表示されます。

◦ スペア数

すべてのスペアディスクのストレージに使用できる格納可能容量が表示されます。

◦ プロビジョニング済み

基盤となるすべてのボリューム用にプロビジョニングされている容量が表示されます。

• * 詳細 *

使用済み容量と使用可能容量に関する詳細情報が表示されます。

◦ 合計容量

クラスタの合計容量が表示されます。これには、パリティ用に割り当てられた容量は含まれません。

◦ 使用済み

データに使用されている容量が表示されます。これには、パリティ、ライトサイジング、リザーベシ

ョン用に使用される容量は含まれません。

- 利用可能

データに使用できる容量が表示されます。

- プロビジョニング済み

基盤となるすべてのボリューム用にプロビジョニングされている容量が表示されます。

- スペア数

すべてのスペアディスクのストレージに使用できる格納可能容量が表示されます。

- * クラウド階層 *

クラスタの FabricPool 対応アグリゲートについて、使用されているクラウド階層の合計容量、および接続されている各クラウド階層で使用されている容量が表示されます。FabricPool のライセンス設定またはライセンス設定は行われません。

- * ディスクタイプ別の物理容量内訳 *

ディスクタイプ別の物理容量ブレイクアウト領域には、クラスタ内のさまざまなタイプのディスクのディスク容量に関する詳細情報が表示されます。ディスクタイプをクリックすると、Disks（ディスク）タブにディスクタイプに関する詳細を表示できます。

- 使用可能な総容量

データディスクの使用可能容量とスペア容量が表示されます。

- HDD

クラスタ内のすべての HDD データディスクの使用済み容量と使用可能容量が図で表示されます。HDD のデータディスクのスペア容量は点線で表されます。

- フラッシュ

- SSD データ

クラスタ内の SSD データディスクの使用済み容量と使用可能容量が図で表示されます。

- SSD キャッシュ

クラスタ内の SSD キャッシュディスクの格納可能容量が図で表示されます。

- SSD スペア

クラスタ内の SSD、データ、およびキャッシュディスクのスペア容量が図で表示されます。

- 未割り当てディスク

クラスタ内の未割り当てのディスクの数が表示されます。

- * 容量に問題があるアグリゲートのリスト *

容量のリスクの問題があるアグリゲートの使用済み容量と使用可能容量に関する詳細が表形式で表示されます。

- ステータス

アグリゲートに容量に関連する特定の重大度の問題があることを示します。

ステータスにカーソルを合わせると、アグリゲートに対して生成されたイベントに関する詳細を確認できます。

アグリゲートのステータスが単一のイベントに基づく場合は、イベントの名前、イベントがトリガーされた日時、イベントが割り当てられている管理者の名前、イベントの原因などの情報が表示されます。イベントの詳細情報を表示するには、[* 詳細の表示 *] ボタンをクリックします。

アグリゲートのステータスが同じ重大度の複数のイベントに基づく場合は、上位の 3 つのイベントについて、イベントの名前、イベントがトリガーされた日時、イベントが割り当てられている管理者の名前などの情報が表示されます。イベント名をクリックすると、それらの各イベントの詳細を確認できます。また、「 * すべてのイベントを表示 * 」リンクをクリックして、生成されたイベントのリストを表示することもできます。



アグリゲートには、重大度が同じまたは異なる容量関連のイベントが複数ある場合もあります。ただし、表示されるのは最も高い重大度だけです。たとえば、重大度が「エラー」と「重大」の 2 つのイベントがアグリゲートにある場合、表示される重大度は「重大」だけです。

- アグリゲート

アグリゲートの名前が表示されます。

- 使用済みデータ容量

アグリゲートの容量の使用率に関する情報が図で表示されます。

- フルまでの日数

アグリゲートの容量がフルに達するまでの推定日数が表示されます。

【 構成 】 タブ

選択したクラスタについて、IPアドレス、シリアル番号、連絡先、場所などの詳細が表示されます。

- * クラスタの概要 *

- 管理インターフェイス

Unified Manager からクラスタへの接続に使用されるクラスタ管理 LIF が表示されます。インターフェイスの動作ステータスも表示されます。

- ホスト名または IP アドレス

Unified Manager からクラスタへの接続に使用されるクラスタ管理 LIF の FQDN、短縮名、または IP アドレスが表示されます。

- FQDN

クラスタの完全修飾ドメイン名（FQDN）が表示されます。

- OS バージョン

クラスタで実行されている ONTAP のバージョンが表示されます。クラスタ内の各ノードで異なるバージョンの ONTAP が実行されている場合は、最も古い ONTAP のバージョンが表示されます。

- シリアル番号

クラスタのシリアル番号が表示されます。

- 連絡先

クラスタで問題が発生した場合に連絡する管理者に関する詳細が表示されます。

- 場所

クラスタの場所が表示されます。

- パーソナリティ

オール SAN アレイ構成のクラスタかどうかを示します。

- * リモートクラスタの概要 *

MetroCluster 構成のリモートクラスタに関する詳細が表示されます。この情報は、MetroCluster 構成に対してのみ表示されます。

- クラスタ

リモートクラスタの名前が表示されます。クラスタ名をクリックすると、クラスタの詳細ページが表示されます。

- ホスト名または IP アドレス

リモートクラスタの FQDN、短縮名、または IP アドレスが表示されます。

- シリアル番号

リモートクラスタのシリアル番号が表示されます。

- 場所

リモートクラスタの場所が表示されます。

- * MetroCluster の概要 *

MetroCluster 構成のローカルクラスタに関する詳細が表示されます。この情報は、MetroCluster 構成に対してのみ表示されます。

- を入力します

MetroCluster タイプが 2 ノードと 4 ノードのどちらであるかが表示されます。

◦ 設定

MetroCluster の設定が表示されます。次の値を指定できます。

- SAS ケーブルを使用したストレッチ構成
- FC-SAS ブリッジを使用したストレッチ構成
- FC スイッチを使用したファブリック構成



4 ノード MetroCluster の場合は、FC スイッチを使用するファブリック構成のみがサポートされます。

+

◦ 自動計画外スイッチオーバー（AUSO）

ローカルクラスタで自動計画外スイッチオーバーが有効になっているかどうかが表示されます。Unified Manager のデフォルトの設定では、2 ノードの MetroCluster 構成の場合、すべてのクラスタで AUSO が有効になります。AUSO の設定はコマンドラインインターフェイスを使用して変更できます。

• * ノード * :

◦ 可用性

稼働しているノードの数 (●) または down (●) をクラスタに追加します。

◦ OS のバージョン

ノードで実行されている ONTAP のバージョンと、そのバージョンの ONTAP を実行しているノードの数が表示されます。たとえば、「9.6 (2)、9.3 (1)」は、2 つのノードで ONTAP 9.6 が実行され、1 つのノードで ONTAP 9.3 が実行されていることを示します。

• * Storage Virtual Machine *

◦ 可用性

稼働している SVM の数 (●) または down (●) をクラスタに追加します。

• * ネットワーク・インターフェイス *

◦ 可用性

稼働している非データ LIF の数 (●) または down (●) をクラスタに追加します。

◦ クラスタ管理インターフェイス

クラスタ管理 LIF の数が表示されます。

◦ ノード管理インターフェイス

ノード管理 LIF の数が表示されます。

- クラスターインターフェイス

クラスター LIF の数が表示されます。

- クラスター間インターフェイス

クラスター間 LIF の数が表示されます。

- * プロトコル *

- データプロトコル

クラスターでライセンスが有効になっているデータプロトコルのリストが表示されます。データプロトコルには、iSCSI、CIFS、NFS、NVMe、FC / FCoE があります。

- * クラウド階層 *

このクラスターが接続されているクラウド階層のリストが表示されます。それぞれのクラウド階層のタイプ（Amazon S3、Microsoft Azure クラウド、IBM Cloud Object Storage、Google Cloud Storage、Alibaba Cloud Object Storage、または StorageGRID）と状態（「使用可能」または「利用不可」）も表示されます。

MetroCluster 接続タブ

MetroCluster 構成のクラスターコンポーネントの問題と接続ステータスが表示されます。ディザスタリカバリパートナーに問題があるクラスターは赤い線で囲んで示されます。



MetroCluster 接続タブは、MetroCluster 構成のクラスターに対してのみ表示されます。

リモートクラスターの名前をクリックすると、リモートクラスターの詳細ページに移動できます。コンポーネント数のリンクをクリックして、コンポーネントの詳細を確認することもできます。たとえば、クラスター内のノード数のリンクをクリックすると、クラスターの詳細ページにノードタブが表示されます。リモートクラスターのディスク数のリンクをクリックすると、リモートクラスターの詳細ページにディスクタブが表示されます。



8 ノード MetroCluster 構成を管理している場合、ディスクシェルフコンポーネントの個数のリンクをクリックすると、デフォルト HA ペアのローカルシェルフのみが表示されます。また、もう一方の HA ペアのローカルシェルフを表示する方法也没有ありません。

コンポーネントにカーソルを合わせると、問題の場合はクラスターの詳細と接続ステータスを確認でき、問題に対して生成されたイベントに関する詳細を確認できます。

コンポーネント間の接続問題のステータスが単一のイベントに基づく場合は、イベントの名前、イベントがトリガーされた日時、イベントが割り当てられている管理者の名前、イベントの原因などの情報が表示されます。[詳細の表示] ボタンをクリックすると、イベントの詳細が表示されます。

コンポーネント間の接続問題のステータスが同じ重大度の複数のイベントに基づく場合は、上位の 3 つのイベントについて、イベントの名前、イベントがトリガーされた日時、イベントが割り当てられている管理者の名前などの情報が表示されます。イベント名をクリックすると、それらの各イベントの詳細を確認できます。また、「* すべてのイベントを表示 *」リンクをクリックして、生成されたイベントのリストを表示することもできます。

MetroCluster レプリケーションタブ

レプリケートされているデータのステータスが表示されます。MetroCluster のレプリケーションタブを使用して、すでにピア関係が設定されたクラスタとデータを同期的にミラーリングすることで、データ保護を確保できます。ディザスタリカバリパートナーに問題があるクラスタは赤い線で囲んで示されます。



MetroCluster レプリケーションタブは、MetroCluster 構成のクラスタに対してのみ表示されます。

MetroCluster 環境では、このタブを使用して、ローカルクラスタとリモートクラスタの間の論理接続やピア関係を検証できます。クラスタコンポーネントとその論理接続を客観的に捉えることができるため、これにより、メタデータやデータのミラーリングで発生する可能性がある問題を特定できます。

MetroCluster レプリケーションタブでは、選択したクラスタと MetroCluster パートナーがリモートクラスタを参照する詳細な図がローカルクラスタに表示されます。

Network Interfaces タブをクリックします

選択したクラスタに作成されているデータ LIF 以外のすべての LIF に関する詳細が表示されます。

• * ネットワーク・インターフェイス *

選択したクラスタに作成されている LIF の名前が表示されます。

• * 動作ステータス *

インターフェイスの動作ステータスが表示されます。up (↑)、Down (↓)、または Unknown (?)。ネットワークインターフェイスの動作ステータスは、物理ポートのステータスで決まります。

• * 管理ステータス *

インターフェイスの管理ステータスが表示されます。up (↑)、Down (↓)、または Unknown (?)。設定を変更する際やメンテナンスを実施する際には、インターフェイスの管理ステータスを変更することができます。管理ステータスは、動作ステータスとは異なる場合があります。ただし、LIF の管理ステータスが「停止」の場合、動作ステータスはデフォルトで「停止」になります。

• * IP アドレス *

インターフェイスの IP アドレスが表示されます。

• * 役割 *

インターフェイスのロールが表示されます。「クラスタ管理 LIF」、「ノード管理 LIF」、「クラスタ LIF」、「クラスタ間 LIF」のいずれかです。

• * ホームポート *

インターフェイスが最初に関連付けられていた物理ポートが表示されます。

• * 現在のポート *

インターフェイスが現在関連付けられている物理ポートが表示されます。LIF の移行後は、現在のポート

がホームポートと同じでなくなることがあります。

- * フェイルオーバーポリシー *

インターフェイスに設定されているフェイルオーバーポリシーが表示されます。

- * ルーティンググループ *

ルーティンググループの名前が表示されます。ルーティンググループ名をクリックすると、ルートとデスティネーションゲートウェイに関する詳細を確認できます。

ルーティンググループは ONTAP 8.3 以降ではサポートされないため、それらのクラスタの列は空白になります。

- * フェイルオーバーグループ *

フェイルオーバーグループの名前が表示されます。

[ノード (Nodes)] タブ

選択したクラスタ内のノードに関する情報が表示されます。HA ペア、ディスクシェルフ、およびポートに関する詳細情報を表示できます。

- * HA の詳細 *

HA ペアのノードの HA の状態と健全性ステータスが図で表示されます。ノードの健全性ステータスは次の色で示されます。

- * 緑 *

ノードは稼働しています。

- * 黄 *

ノードがパートナーノードをテイクオーバーしたか、環境に何らかの問題があります。

- * 赤 *

ノードは停止しています。

HA ペアの可用性に関する情報を確認して、リスクを回避するための必要な措置を講じることができます。たとえば、テイクオーバー処理が実行された可能性がある場合は次のメッセージが表示されます。Storage failover possible。

ファン、電源装置、NVRAM バッテリ、フラッシュカード、サービスプロセッサ、およびディスクシェルフの接続。イベントがトリガーされた時刻を確認することもできます。

モデル番号やシリアル番号など、ノード関連のその他の情報を確認することができます。

シングルノードクラスタがある場合は、ノードに関する詳細も確認できます。

- * ディスクシェルフ * :

HA ペアのディスクシェルフに関する情報が表示されます。

ディスクシェルフや環境コンポーネントに対して生成されたイベントも表示され、それらのイベントがトリガーされた時刻も確認できます。

- * シェルフ ID *

ディスクが配置されているシェルフの ID が表示されます。

- * コンポーネントステータス *

電源装置、ファン、温度センサー、電流センサー、ディスク接続など、ディスクシェルフの環境に関する詳細が表示されます。 および電圧センサー。環境の詳細は、次の色のアイコンで表示されます。

- * 緑 *

環境コンポーネントは適切に動作しています。

- * グレー *

環境コンポーネントについてのデータがありません。

- * 赤 *

一部の環境コンポーネントは停止しています。

- * 状態 *

ディスクシェルフの状態が表示されます。「オフライン」、「オンライン」、「ステータスなし」、「初期化が必要」、「見つからない」、「不明」のいずれかです

- * モデル *

ディスクシェルフのモデル番号が表示されます。

- * ローカルディスクシェルフ *

ディスクシェルフがローカルクラスタとリモートクラスタのどちらに配置されているかを示します。この列は、MetroCluster 構成のクラスタに対してのみ表示されます。

- * 一意の ID*

ディスクシェルフの一意の識別子が表示されます。

- * ファームウェアバージョン *

ディスクシェルフのファームウェアバージョンが表示されます。

- * ポート * :

関連付けられた FC、FCoE、およびイーサネットポートに関する情報が表示されます。ポートのアイコンをクリックすると、ポートとそれに関連付けられている LIF に関する詳細を確認できます。

ポートに対して生成されたイベントを確認することもできます。

ポートに関する次の詳細を確認できます。

- ポート ID

ポートの名前が表示されます。たとえば、e0M、e0a、e0b などです。

- ロール

ポートのロールが表示されます。「クラスタ」、「データ」、「クラスタ間」、「ノード管理」、「未定義」のいずれかです。

- を入力します

ポートに使用されている物理レイヤプロトコルが表示されます。「イーサネット」、「ファイバチャネル」、「FCoE」のいずれかです。

- WWPN

ポートの World Wide Port Name（WWPN；ワールドワイドポート名）が表示されます。

- ファームウェアリビジョン

FC / FCoE ポートのファームウェアのリビジョンが表示されます。

- ステータス

ポートの現在の状態が表示されます。「稼働」、「停止」、「リンク未接続」、「不明」（）。

ポート関連イベントは、イベントリストで確認できます。関連付けられている LIF の詳細について、LIF の名前、動作ステータス、IP アドレスまたは WWPN、プロトコル、LIF に関連付けられている SVM の名前、現在のポート、フェイルオーバーポリシー、フェイルオーバーグループなどの情報も確認できます。

Disks（ディスク）タブ

選択したクラスタ内のディスクに関する詳細が表示されます。使用されているディスク、スペアディスク、破損ディスク、未割り当てディスクの数など、ディスク関連の情報を確認できます。ディスク名、ディスクタイプ、ディスクの所有者ノードなどの詳細も確認できます。

- * ディスクプールの概要 *

実質的タイプ（FCAL、SAS、SATA、MSATA、SSD）別のディスク数が表示されます。NVMe SSD、SSD の容量、アレイ LUN、VMDISK）、ディスクの状態アグリゲート、共有ディスク、スペアディスク、破損ディスク、未割り当てディスクの数など、その他の詳細を確認することもできます。サポートされていないディスクで構成実質的ディスクタイプ数のリンクをクリックすると、選択した状態および実質的タイプのディスクが表示されます。たとえば、状態が「破損」で実質的タイプが「SAS」のディスク数のリンクをクリックすると、状態が「破損」で実質的タイプが「SAS」のすべてのディスクが表示されます。

- * ディスク *

ディスクの名前が表示されます。

- * RAID グループ *

RAID グループの名前が表示されます。

- * 所有者ノード *

ディスクが属するノードの名前が表示されます。ディスクが未割り当ての場合、この列に値は表示されません。

- * 状態 *

ディスクの状態が表示されます。「アグリゲート」、「共有」、「スペア」、「破損」、「未割り当て」、サポートされていないか不明ですデフォルトでは、この列の状態は、「破損」、「未割り当て」、「サポート対象外」、「スペア」、「アグリゲート」の順にソートされて表示されます。共有。

- * ローカルディスク *

ディスクがローカルクラスタに配置されているかリモートクラスタに配置されているかを示す「はい」または「いいえ」が表示されます。この列は、MetroCluster 構成のクラスタに対してのみ表示されます。

- * 位置 *

コンテナタイプに基づいてディスクの位置が表示されます。たとえば、コピー、データ、パリティなどです。デフォルトでは、この列は表示されません。

- * 影響を受けるアグリゲート *

障害が発生したディスクの影響を受けるアグリゲートの数が表示されます。個数のリンクにカーソルを合わせると影響を受けるアグリゲートが表示され、アグリゲート名をクリックするとそのアグリゲートの詳細を確認できます。アグリゲート数をクリックして、影響を受けるアグリゲートのリストを「健全性：すべてのアグリゲート」ビューで確認することもできます。

次の場合、この列に値は表示されません。

- Unified Manager に追加されたクラスタに破損ディスクが含まれている場合
- 障害が発生したディスクがない場合

- * ストレージプール *

SSD が属するストレージプールの名前が表示されます。ストレージプールの名前にカーソルを合わせると、ストレージプールの詳細を確認できます。

- * 格納可能な容量 *

使用可能なディスク容量が表示されます。

- * 物理容量 *

ライトサイジングや RAID 構成でフォーマットする前の raw ディスクの容量が表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- * タイプ *

ディスクのタイプが表示されます。たとえば、ATA、SATA、FCAL、VMDISK などです。

- * 有効なタイプ *

ONTAP によって割り当てられたディスクタイプが表示されます。

ONTAP の特定のディスクタイプは、その作成、アグリゲートへの追加、およびスペアの管理を行う目的において同じタイプとみなされます。ONTAP は、各ディスクタイプに実質的ディスクタイプを割り当てます。

- * スペアブロック使用率。 *

SSD ディスクの使用済みのスペアブロックの割合が表示されます。この列は、SSD ディスク以外のディスクについては空白になります。

- * 使用された定格寿命 %*

SSD の実際の使用状況とメーカーの想定寿命に基づいて、SSD の推定される使用済み寿命の割合が表示されます。この値が 99 を超えた場合、想定される耐久度に達したと考えられますが、必ずしも SSD で障害が発生しているとはかぎりません。値が不明なディスクについては省略されます。

- * ファームウェア *

ディスクのファームウェアバージョンが表示されます。

- * RPM *

ディスクの回転速度（rpm）が表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- * モデル *

ディスクのモデル番号が表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- * ベンダー *

ディスクベンダーの名前が表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- * シェルフ ID *

ディスクが配置されているシェルフの ID が表示されます。

- * 湾 *

ディスクが配置されているベイの ID が表示されます。

[関連注釈（ Related Annotations ）] パネル

選択したクラスタに関連付けられているアノテーションの詳細を確認できます。これには、クラスタに適用されるアノテーションの名前と値などの情報が含まれます。関連するアノテーションペインから手動アノテーションを削除することもできます。

Related Devices ペイン

選択したクラスタに関連付けられているデバイスの詳細を確認できます。

これには、クラスタに接続されたデバイスのタイプ、サイズ、数、ヘルスステータスなどのプロパティが含まれます。個数のリンクをクリックすると、そのデバイスについてさらに詳しい分析を行うことができます。

MetroCluster のパートナーペインを使用すると、リモート MetroCluster パートナーの数や詳細、およびノード、アグリゲート、SVM などの関連するクラスタコンポーネントを取得できます。MetroCluster パートナーペインは、MetroCluster 構成のクラスタに対してのみ表示されます。

Related Devices ペインでは、クラスタに関連するノード、SVM、アグリゲートを確認し、それらに移動することができます。

- * MetroCluster パートナー *

MetroCluster パートナーのヘルスステータスが表示されます。個数のリンクを使用して詳細に移動し、クラスタコンポーネントの健全性や容量に関する情報を確認できます。

- * ノード * :

選択したクラスタに属するノードの数、容量、および健全性ステータスが表示されます。容量は、総容量のうちの使用可能な合計容量を示します。

- * Storage Virtual Machine *

選択したクラスタに属する SVM の数が表示されます。

- * アグリゲート *

選択したクラスタに属するアグリゲートの数、容量、および健全性ステータスが表示されます。

【関連グループ】ペイン

選択したクラスタを含むグループのリストを確認できます。

【関連アラート】ペイン

関連するアラートペインでは、選択したクラスタのアラートのリストを確認できます。また、[Add Alert] リンクをクリックしてアラートを追加したり、アラート名をクリックして既存のアラートを編集したりすることもできます。

アグリゲート / 健全性の詳細ページ

アグリゲート / 健全性の詳細ページでは、選択したアグリゲートについて、容量、ディスク情報、設定の詳細、生成されたイベントなどの詳細情報を確認できます。また、そのアグリゲートに関連するオブジェクトやアラートに関する情報も参照できます。

コマンドボタン



FabricPool 対応アグリゲートを監視する場合、このページのコミット済み容量とオーバーコミット容量の値はローカルのパフォーマンス階層の容量のみに基づきます。クラウド階層で使用可能なスペースの量は、オーバーコミット容量の値に反映されません。同様に、アグリゲートのしきい値もローカルのパフォーマンス階層のみに対する値となります。

選択したアグリゲートについて、各コマンドボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- * パフォーマンスビューに切り替え *

アグリゲート / パフォーマンスの詳細ページに移動できます。

- * アクション *

- アラートを追加します

選択したアグリゲートにアラートを追加できます。

- しきい値の編集

選択したアグリゲートのしきい値の設定を変更できます。

- * アグリゲートを表示 *

健全性：すべてのアグリゲートビューに移動できます。

Capacity（容量）タブ

容量タブには、選択したアグリゲートについて、容量、しきい値、日次増加率などの詳細情報が表示されます。

デフォルトでは、ルートアグリゲートについては容量のイベントは生成されません。また、Unified Manager で使用されるしきい値のノードのルートアグリゲートには適用されません。これらのイベントが生成されるように設定を変更できるのは、テクニカルサポート担当者だけです。テクニカルサポート担当者が設定を変更すると、しきい値がノードのルートアグリゲートにも適用されるようになります。

- * 容量 *

データ容量のグラフと Snapshot コピーのグラフに、アグリゲートの容量の詳細が表示されます。

- 使用済み論理スペース

アグリゲートに格納されているデータの実際のサイズ。ONTAP の Storage Efficiency テクノロジーによる削減を適用する前のサイズです。

- 使用済み

アグリゲートでデータに使用されている物理容量。

- オーバーコミット

アグリゲートのスペースがオーバーコミットされている場合、グラフにフラグとオーバーコミット容量が表示されます。

- 警告

警告しきい値が設定されている場所に点線が表示されます。つまり、アグリゲートのスペースがほぼフルです。このしきい値を超えると、「スペースがほぼフル」イベントが生成されます。

- エラー

エラーしきい値が設定された場所にある、アグリゲートのスペースがフルであることを示す実線が表示されます。このしきい値を超えると、「スペースがフル」イベントが生成されます。

- Snapshot コピーのグラフ

このグラフは、Snapshot 使用容量または Snapshot リザーブが 0 でない場合にのみ表示されます。

どちらのグラフにも、Snapshot 使用容量が Snapshot リザーブを超えている場合には超過分の使用容量が表示されます。

- * クラウド階層 *

FabricPool 対応アグリゲートについて、クラウド階層でデータに使用されているスペースが表示されます。FabricPool のライセンス設定またはライセンス設定は行われません。

クラウド階層が別のクラウドプロバイダ（「ミラーリング層」）にミラーリングされている場合、両方のクラウド階層がここに表示されます。

- * 詳細 *

容量に関する詳細情報が表示されます。

- 合計容量

アグリゲート内の合計容量が表示されます。

- データ容量

アグリゲートで使用されているスペース（使用済み容量）とアグリゲートの使用可能なスペース（空き容量）が表示されます。

- Snapshot リザーブ

アグリゲートの Snapshot の使用容量と空き容量が表示されます。

- オーバーコミット容量

アグリゲートオーバーコミットメントを表示します。アグリゲートオーバーコミットを使用すると、すべてのストレージが使用中でないかぎり、アグリゲートの実際の使用可能容量よりも多くのストレージを割り当てることができます。シンプロビジョニングを使用している場合、アグリゲート内のボリュームの合計サイズがアグリゲートの総容量を超えることがあります。



アグリゲートをオーバーコミットした場合は、アグリゲートの空きスペースを注意深く監視し、必要に応じてストレージを追加して、スペース不足による書き込みエラーを回避する必要があります。

。クラウド階層

FabricPool 対応アグリゲートについて、クラウド階層でデータに使用されているスペースが表示されます。FabricPool のライセンス設定またはライセンス設定は行われません。クラウド階層が別のクラウドプロバイダ（ミラー階層）にミラーリングされている場合、両方のクラウド階層が表示されます

。合計キャッシュスペース

Flash Pool アグリゲートに追加されているソリッドステートドライブ（SSD）の合計スペースが表示されます。アグリゲートで Flash Pool を有効にしているが、SSD が追加されていない場合、キャッシュスペースは 0KB と表示されます。



このフィールドは、アグリゲートで Flash Pool が無効になっている場合は表示されません。

。アグリゲートのしきい値

アグリゲートの容量に関する次のしきい値が表示されます

▪ ほぼフルのしきい値

アグリゲートがほぼフルであるとみなす割合を示します。

▪ フルのしきい値

アグリゲートがフルであるとみなす割合を示します。

▪ 「ほぼオーバーコミット」しきい値

アグリゲートがほぼオーバーコミットされているとみなす割合を示します。

▪ 「オーバーコミット」しきい値

アグリゲートがオーバーコミットされたとみなす割合を示します。

。その他の詳細：日次増加率

最後の 2 つのサンプル間の変更率が 24 時間続いた場合にアグリゲートで使用するディスクスペースが表示されます。

たとえば、アグリゲートのディスクスペースの使用量が午後 2 時に 10GB で、午後 6 時に 12GB であるとする、このアグリゲートの 1 日あたりの増加率は 2GB です。

。ボリューム移動

現在実行中のボリューム移動処理の数が表示されます。

▪ ボリュームが配置されました

アグリゲートから移動中のボリュームの数と容量が表示されます。

リンクをクリックすると、ボリューム名、ボリュームの移動先のアグリゲート、ボリューム移動処理のステータス、推定終了時刻などの詳細を確認できます。

- に表示されます

アグリゲートに移動中のボリュームの数と残りの移動容量が表示されます。

リンクをクリックすると、ボリューム名、ボリュームの移動元のアグリゲート、ボリューム移動処理のステータス、推定終了時刻などの詳細を確認できます。

- ボリューム移動後の推定使用容量

ボリューム移動処理完了後のアグリゲートの推定使用済みスペース（割合と KB、MB、GB など）が表示されます。

• * 容量の概要 - ボリューム *

アグリゲートに含まれるボリュームの容量に関する情報がグラフで表示されます。ボリュームで使用されているスペース（使用済み容量）とボリュームの使用可能なスペース（空き容量）が表示されます。シンプロビジョニングボリュームについて「シンプロビジョニングボリュームにスペースリスクあり」イベントが生成された場合は、ボリュームで使用されているスペース（使用済み容量）と、ボリュームで使用可能なスペースのうちアグリゲートの容量の問題が原因で使用できないスペース（使用不可の容量）が表示されます。

表示するグラフはドロップダウンリストから選択できます。グラフに表示されるデータをソートして、使用済みサイズ、プロビジョニングされたサイズ、使用可能な容量、1日あたりの最大および最小増加率などの詳細を表示できます。アグリゲート内のボリュームを含む Storage Virtual Machine（SVM）でデータをフィルタリングできます。シンプロビジョニングボリュームの詳細を表示することもできます。グラフの特定のポイントにカーソルを合わせると、その時点の詳細を確認できます。デフォルトでは、アグリゲート内の上位 30 個のボリュームがフィルタリングされて表示されます。

Disk Information（ディスク情報）タブ

選択したアグリゲート内のディスクについて、RAID タイプとサイズ、アグリゲートで使用されているディスクのタイプなど、詳細な情報が表示されます。このタブには、RAID グループと使用されているディスクのタイプ（SAS、ATA、FCAL、SSD、VMDISK など）を示す図も表示されます。パリティディスクやデータディスクにカーソルを合わせると、ディスクのベイ、シェルフ、回転速度などの詳細を確認できます。

• * データ *

専用データディスク、共有データディスク、またはその両方の詳細が図で表示されます。データディスクに共有ディスクが含まれている場合は、共有ディスクの詳細が表示されます。専用ディスクと共有ディスクの両方が含まれているデータディスクの場合は、両方のディスクの詳細が表示されます。

- * RAID の詳細 *

専用ディスクの場合のみ、RAID の詳細が表示されます。

- を入力します

RAID タイプ（RAID 0、RAID 4、RAID-DP、または RAID-TEC）が表示されます。

- グループサイズ

RAID グループに含めることができるディスクの最大数が表示されます。

- グループ

アグリゲート内の RAID グループの数が表示されます。

- * 使用されているディスク *

- 実質的タイプ

データディスクの種類（ATA、SATA、FCAL、SSD、や VMDISK など）を追加します。

- データディスク

アグリゲートに割り当てられているデータディスクの数と容量が表示されます。データディスクの詳細は、アグリゲートに共有ディスクしか含まれていない場合は表示されません。

- パリティディスク

アグリゲートに割り当てられているパリティディスクの数と容量が表示されます。パリティディスクの詳細は、アグリゲートに共有ディスクしか含まれていない場合は表示されません。

- 共有ディスク

アグリゲートに割り当てられている共有データディスクの数と容量が表示されます。共有ディスクの詳細は、アグリゲートに共有ディスクが含まれている場合にのみ表示されます。

- * スペアディスク *

選択したアグリゲートのノードで利用できるスペアデータディスクの実質的タイプ、数、および容量が表示されます。



Unified Manager では、アグリゲートがパートナーノードにフェイルオーバーされた場合、アグリゲートと互換性があるすべてのスペアディスクが表示されないことがあります。

- * SSD キャッシュ *

専用キャッシュ SSD ディスクと共有キャッシュ SSD ディスクに関する詳細が表示されます。

専用キャッシュ SSD ディスクについては、次の詳細が表示されます。

- * RAID の詳細 *

- を入力します

RAID タイプ（RAID 0、RAID 4、RAID-DP、または RAID-TEC）が表示されます。

- グループサイズ

RAID グループに含めることができるディスクの最大数が表示されます。

- グループ

アグリゲート内の RAID グループの数が表示されます。

- * 使用されているディスク *

- 実質的タイプ

アグリゲートでキャッシュに使用されているディスクタイプとして「SSD」が表示されます。

- データディスク

キャッシュ用にアグリゲートに割り当てられているデータディスクの数と容量が表示されます。

- パリティディスク

キャッシュ用にアグリゲートに割り当てられているパリティディスクの数と容量が表示されます。

- * スペアディスク *

選択したアグリゲートのノードでキャッシュに使用できるスペアディスクの実質的タイプ、数、および容量が表示されます。



Unified Manager では、アグリゲートがパートナーノードにフェイルオーバーされた場合、アグリゲートと互換性があるすべてのスペアディスクが表示されないことがあります。

共有キャッシュについては、次の情報が表示されます。

- * ストレージプール *

ストレージプールの名前が表示されます。ストレージプールの名前にカーソルを合わせると、次の情報を確認できます。

- ステータス

ストレージプールのステータスが表示されます。正常であるか正常でないかがあります。

- 割り当て合計

ストレージプール内の合計割り当て単位とサイズが表示されます。

- 割り当て単位のサイズ

アグリゲートに割り当て可能なストレージプール内の最小スペースが表示されます。

- ディスク

ストレージプールの作成に使用されているディスクの数が表示されます。ストレージプールの列のディスク数と、そのストレージプールのディスク情報タブに表示されるディスク数が一致しな

いは、1 つ以上のディスクが破損しており、ストレージプールが正常な状態でないことを示しています。

- 使用済みの割り当て

アグリゲートで使用されている割り当て単位の数とサイズが表示されます。アグリゲート名をクリックすると、アグリゲートの詳細を確認できます。

- 使用可能な割り当て

ノードで使用可能な割り当て単位の数とサイズが表示されます。ノード名をクリックすると、アグリゲートの詳細を確認できます。

- * 割り当て済みキャッシュ *

アグリゲートで使用されている割り当て単位のサイズが表示されます。

- * 割り当て単位 *

アグリゲートで使用されている割り当て単位の数が表示されます。

- * ディスク *

ストレージプールに含まれているディスクの数が表示されます。

- * 詳細 *

- ストレージプール

ストレージプールの数が表示されます。

- 合計サイズ

ストレージプールの合計サイズが表示されます。

- * クラウド階層 *

FabricPool 対応アグリゲートを設定している場合にクラウド階層の名前が表示され、使用済みの合計スペースが表示されます。クラウド階層が別のクラウドプロバイダ（ミラー階層）にミラーリングされている場合、両方のクラウド階層の詳細が表示されます

【構成】タブ

Configuration タブには、選択したアグリゲートについて、クラスタノード、ブロックタイプ、RAID タイプ、RAID サイズ、RAID グループ数などの詳細が表示されます。

- * 概要 *

- ノード

選択したアグリゲートが含まれるノードの名前が表示されます。

- ブロックタイプ（Block Type）

アグリゲートのブロック形式が表示されます。 32 ビットまたは 64 ビットのいずれかになります。

- RAID タイプ

RAID タイプ（RAID 0、RAID 4、RAID-DP、RAID-TEC、または混在 RAID）が表示されます。

- RAID サイズ

RAID グループのサイズが表示されます。

- RAID グループ

アグリゲート内の RAID グループの数が表示されます。

- SnapLock タイプ

アグリゲートの SnapLock タイプが表示されます。

- * クラウド階層 *

FabricPool 対応アグリゲートの場合、クラウド階層の詳細が表示されます。一部のフィールドはストレージプロバイダによって異なります。クラウド階層が別のクラウドプロバイダ（「ミラーリング層」）にミラーリングされている場合、両方のクラウド階層がここに表示されます。

- プロバイダ

ストレージプロバイダの名前が表示されます。たとえば、StorageGRID、Amazon S3、IBM Cloud Object Storage、Microsoft Azure クラウド、Google Cloud Storage、Alibaba Cloud Object Storage などです。

- 名前

ONTAP での作成時に指定されたクラウド階層の名前が表示されます。

- サーバ

クラウド階層の FQDN が表示されます。

- ポート

クラウドプロバイダとの通信に使用されているポート。

- アクセスキーまたはアカウント

クラウド階層のアクセスキーまたはアカウントが表示されます。

- コンテナ名

クラウド階層のバケット名またはコンテナ名が表示されます。

- SSL

クラウド階層に対して SSL 暗号化が有効になっているかどうかが表示されます。

履歴領域

履歴領域には、選択したアグリゲートの容量に関する情報がグラフで表示されます。また、[* エクスポート*] ボタンをクリックして、表示しているチャートの CSV 形式でレポートを作成することもできます。

履歴ペインの上部にあるドロップダウンリストからグラフタイプを選択できます。1 週間、1 カ月、または 1 年のいずれかを選択して、特定の期間の詳細を表示することもできます。履歴グラフは傾向を確認するのに役立ちます。たとえば、アグリゲートの使用量が継続的に「ほぼフル」のしきい値を超えていれば、それに応じた措置を講じることができます。

履歴グラフには次の情報が表示されます。

- * アグリゲート - 使用容量 (%) *

折れ線グラフの形式で、アグリゲートの使用率とアグリゲートの容量使用履歴が縦軸 (y 軸) に表示されます。横軸 (x 軸) に期間が表示されます。期間は、1 週間、1 カ月、または 1 年のいずれかを選択できます。グラフの特定のポイントにカーソルを合わせると、その時点の詳細を確認できます。対応する凡例をクリックして、折れ線グラフの表示と非表示を切り替えることができます。たとえば、Capacity Used の凡例をクリックすると、Capacity Used のグラフの線が非表示になります。

- * アグリゲート - 使用容量と総容量 *

折れ線グラフの形式で、アグリゲートの容量の使用履歴と使用済み容量および合計容量 (バイト、KB、MB) が表示されます。垂直 (y) 軸など。横軸 (x 軸) に期間が表示されます。期間は、1 週間、1 カ月、または 1 年のいずれかを選択できます。グラフの特定のポイントにカーソルを合わせると、その時点の詳細を確認できます。対応する凡例をクリックして、折れ線グラフの表示と非表示を切り替えることができます。たとえば、「使用済みトレンド容量」の凡例をクリックすると、「使用済みトレンド容量」のグラフ行が非表示になります。

- * アグリゲート - 使用容量 (%) 対コミット容量 (%) *

折れ線グラフの形式で、アグリゲートの容量使用履歴とコミット済みスペースの割合が縦軸 (y 軸) に表示されます。横軸 (x 軸) に期間が表示されます。期間は、1 週間、1 カ月、または 1 年のいずれかを選択できます。グラフの特定のポイントにカーソルを合わせると、その時点の詳細を確認できます。対応する凡例をクリックして、折れ線グラフの表示と非表示を切り替えることができます。たとえば、Space Committed の凡例をクリックすると、Space Committed のグラフの線が非表示になります。

イベントのリスト

イベントリストには、新規イベントと確認済みイベントに関する詳細が表示されます。

- * 重大度 *

イベントの重大度が表示されます。

- * イベント *

イベント名が表示されます。

- * トリガー日時 *

イベントが生成されてからの経過時間が表示されます。1 週間を過ぎたイベントには、生成時のタイムス

タブが表示されます。

Related Devices ペイン

Related Devices ペインでは、アグリゲートに関連するクラスタノード、ボリューム、およびディスクを確認できます。

- * ノード *

アグリゲートが含まれるノードの容量と健全性ステータスが表示されます。容量は、総容量のうちの使用可能な合計容量を示します。

- * ノード内のアグリゲート *

選択したアグリゲートが含まれるクラスタノード内のアグリゲートの総数と容量が表示されます。最も高い重大度レベルに基づいて、アグリゲートの健全性ステータスも表示されます。たとえば、クラスタノードに 10 個のアグリゲートがあり、5 つのステータスが「警告」で残りの 5 つが「重大」の場合、ステータスは「重大」と表示されます。

- * ボリューム *

アグリゲート内の FlexVol ボリュームと FlexGroup ボリュームの数と容量が表示されます。FlexGroup コンスティチュエントは含まれません。最も高い重大度レベルに基づいて、ボリュームの健全性ステータスも表示されます。

- * リソースプール *

アグリゲートに関連するリソースプールが表示されます。

- * ディスク *

選択したアグリゲート内のディスクの数が表示されます。

【関連アラート】ペイン

関連するアラートペインでは、選択したアグリゲートに対して作成されたアラートのリストを確認できます。また、[Add Alert] リンクをクリックしてアラートを追加したり、アラート名をクリックして既存のアラートを編集したりすることもできます。

ユーザを追加する

ユーザページを使用して、ローカルユーザまたはデータベースユーザを追加できます。また、認証サーバに属するリモートユーザやリモートグループを追加することもできます。追加したユーザにロールを割り当てることで、ユーザはロールの権限に基づいて Unified Manager でストレージオブジェクトやデータを管理したり、データベースのデータを表示したりできます。

作業を開始する前に

- アプリケーション管理者のロールが必要です。
- リモートのユーザまたはグループを追加する場合は、リモート認証を有効にし、認証サーバを設定しておく必要があります。
- SAML 認証を設定して、グラフィカルインターフェイスにアクセスするユーザをアイデンティティプロバイダ（IdP）で認証する場合は、これらのユーザが「「morte」ユーザとして定義されていることを確認します。

SAML 認証が有効になっている場合、「ローカル」または「メンテナンス」タイプのユーザーに UI へのアクセスは許可されません。

このタスクについて

Windows Active Directory からグループを追加した場合は、ネストされたサブグループが無効になっていないかぎり、すべての直接メンバーとネストされたサブグループは Unified Manager で認証できます。OpenLDAP またはその他の認証サービスからグループを追加した場合は、そのグループの直接のメンバーだけが Unified Manager で認証されます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、* 一般 * > * ユーザー * をクリックします。
2. [Users] ページで、[Add] をクリックします。
3. [ユーザーの追加] ダイアログボックスで、追加するユーザーのタイプを選択し、必要な情報を入力します。

必要なユーザ情報を入力するときは、そのユーザに固有の E メールアドレスを指定する必要があります。複数のユーザで共有している E メールアドレスは指定しないでください。

4. [追加（Add）] をクリックします。

データベースユーザを作成しています

Workflow Automation と Unified Manager の間の接続をサポートする場合や、データベースビューにアクセスする場合は、まず Unified Manager Web UI で、Integration Schema ロールまたは Report Schema ロールを持つデータベースユーザを作成する必要があります。

作業を開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

このタスクについて

データベースユーザは、Workflow Automation との統合およびレポート固有のデータベースビューへのアクセスを行うことができます。データベースユーザは、Unified Manager Web UI やメンテナンスコンソールにはアクセスできず、API 呼び出しも実行できません。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、* 一般 * > * ユーザー * をクリックします。
2. [ユーザー] ページで、[* 追加] をクリックします。
3. ユーザーの追加* (Add User) ダイアログボックスの* タイプ (* Type) ドロップダウンリストで* データベースユーザー (* Database User *) を選択します。
4. データベースユーザの名前とパスワードを入力します。
5. [* 役割 *] ドロップダウンリストで、適切な役割を選択します。

実行する作業	このロールを選択します
Unified Manager を Workflow Automation に接続しています	統合スキーマ
レポートおよびその他のデータベースビューにアクセスする	レポートスキーマ

6. [追加 (Add)] をクリックします。

ユーザタイプの定義

ユーザは、アカウントの種類に基づいて、リモートユーザ、リモートグループ、ローカルユーザ、データベースユーザ、およびメンテナンスユーザの各タイプに分類されます。それぞれのタイプには、管理者ロールを持つユーザによって独自のロールが割り当てられます。

Unified Manager には次のユーザタイプがあります。

- * メンテナンスユーザー *

Unified Manager の初期設定時に作成されます。メンテナンスユーザは、別のユーザを作成してロールを割り当てます。メンテナンスコンソールにアクセスできる唯一のユーザでもあります。Unified Manager を Red Hat Enterprise Linux または CentOS システムにインストールしている場合、メンテナンスユーザのユーザ名は「umadmin」です。

- * ローカルユーザー *

Unified Manager UI にアクセスし、メンテナンスユーザまたはアプリケーション管理者ロールを持つユーザから割り当てられたロールに基づいて操作を実行します。

- * リモートグループ *

認証サーバに保存されているクレデンシャルを使用して Unified Manager UI にアクセスするユーザのグループです。このアカウントの名前は、認証サーバに保存されているグループの名前と一致する必要があります。リモートグループのユーザは、各自のユーザクレデンシャルを使用して Unified Manager UI にアクセスできます。リモートグループに割り当てられたロールに基づいて操作を実行できます。

- * リモートユーザー *

認証サーバに保存されているクレデンシャルを使用して Unified Manager UI にアクセスします。リモートユーザは、メンテナンスユーザまたはアプリケーション管理者ロールを持つユーザから割り当てられたロールに基づいて操作を実行します。

• * データベースユーザ *

Unified Manager データベースのデータへの読み取り専用アクセスが許可されます。Unified Manager の Web インターフェイスやメンテナンスコンソールにはアクセスできず、API 呼び出しも実行できません。

Unified Manager のユーザロールと機能

Unified Manager で実行できる操作は、割り当てられているユーザロールに基づいて決まります。

次の表に、各ユーザロールで実行できる機能を示します。

機能	演算子	ストレージ管理者	アプリケーション管理者	統合スキーマ	レポートスキーマ
ストレージシステムの情報を表示する	•	•	•	•	•
履歴や容量のトレンドなど、その他のデータを確認できます	•	•	•	•	•
イベントを表示、割り当て、解決します	•	•	•		
SVM の関連付けやリソースプールなどのストレージサービスオブジェクトを表示する	•	•	•		
しきい値ポリシーを表示します	•	•	•		
SVM の関連付けやリソースプールなどのストレージサービスオブジェクトを管理する		•	•		

機能	演算子	ストレージ管理者	アプリケーション管理者	統合スキーマ	レポートスキーマ
アラートを定義		•	•		
ストレージ管理 オプションの管理		•	•		
ストレージ管理 ポリシーを管理 する		•	•		
ユーザを管理し ます			•		
管理オプション の管理			•		
しきい値ポリシ ーを定義			•		
データベースア クセスの管理			•		
WFA との統合の 管理とデータベ ースビューへの アクセス				•	
レポートのスケ ジュール設定と 保存		•	•		
管理アクション から「Fix it」 オペレーション を実行します		•	•		
データベースビ ューへの読み取 り専用アクセス を提供します					•

HTTPS セキュリティ証明書の生成

Active IQ Unified Manager を初めてインストールするときは、デフォルトの HTTPS 証

明書がインストールされます。既存の証明書を置き換える新しい HTTPS セキュリティ証明書を生成することがあります。

作業を開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

このタスクについて

証明書を再生成する理由はいくつかあります。たとえば、識別名（DN）の値を大きくする場合や、キーのサイズを大きくする場合や、有効期限を延長する場合、現在の証明書の有効期限が切れている場合などです。

Unified Manager Web UI にアクセスできない場合は、メンテナンスコンソールを使用して同じ値で HTTPS 証明書を再生成できます。証明書を再生成する際には、キーのサイズと有効期間を定義できます。を使用する場合 Reset Server Certificate メンテナンスコンソールからオプションを選択すると、397日間有効な新しいHTTPS証明書が作成されます。この証明書には、サイズが 2048 ビットの RSA キーがあります。


手順

- 1. 左側のナビゲーションペインで、 * General * > * HTTPS Certificate * をクリックします。
- 2. [* HTTPS 証明書の再生成 *] をクリックします。

HTTPS 証明書の再生成ダイアログボックスが表示されます。

- 3. 証明書を生成する方法に応じて、次のいずれかのオプションを選択します。

状況	手順
現在の値で証明書を再生成します	[現在の証明書属性を使用して再生成（ Regenerate using current Certificate Attributes ）] オプションをクリックし

状況	手順
別の値を使用して証明書を作成します	<p>[現在の証明書属性を更新する *] オプションをクリックします。</p> <p>新しい値を入力しない場合は、[共通名]フィールドと[代替名]フィールドに既存の証明書の値が使用されます。「共通名」は、ホストの FQDN に設定する必要があります。その他のフィールドには値はありませんが、電子メール、会社、部署、証明書に値を入力する場合は、[市区町村]、[都道府県]、および[国]を選択します。使用可能なキー・サイズ（キー・アルゴリズムは「RSA」）と有効期間から選択することもできます。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">  </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> • キーサイズに指定できる値は、です 2048、3072 および 4096。 • 有効期間は、1 日 ~ 最大 36500 日です。 <p>有効期間は 36500 日ですが、有効期間は 397 日以内または 13 か月以内にすることをお勧めします。397 日以上の有効期間を選択し、この証明書の CSR をエクスポートして既知の CA によって署名された証明書を取得する予定であるため、CA から返された署名済み証明書の有効性は 397 日に減少します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 証明書の代替名フィールドからローカル識別情報を削除する場合は、[ローカル識別情報を除外する] チェックボックス（例：localhost\）をオンにします。このチェックボックスをオンにすると、[代替名]フィールドに入力したフィールドのみが使用されます。空白のままにすると、結果の証明書に代替名フィールドがまったく表示されなくなります。 </div> </div>

1. [はい] をクリックして証明書を再生成します。
2. 新しい証明書を有効にするために Unified Manager サーバを再起動します。

完了後

HTTPS 証明書を表示して新しい証明書の情報を確認します。

Unified Manager の CLI コマンドがサポートされています

ストレージ管理者は、CLI コマンドを使用して、クラスタ、アグリゲート、ボリューム、qtree、および LUN : CLI コマンドを使用して、Unified Manager の内部データベースと ONTAP データベースを照会できます。CLI コマンドは、処理の開始時または終了時に実行されるスクリプト、アラートがトリガーされたときに実行されるスクリプトでも使用できます。

すべてのコマンドの前にコマンドを入力する必要があります `um cli login` 認証用の有効なユーザ名とパスワードを指定します。

CLI コマンド	説明	出力
um cli login -u <username> [-p <password>]	CLI にログインします。セキュリティ上の理由から、「-u」オプションの後にはユーザ名のみを入力してください。この方法でパスワードを入力すると、パスワードの入力を求められます。パスワードは履歴テーブルまたはプロセステーブルには保存されません。セッションはログインしてから 3 時間が経過すると期限切れになり、3 時間が経過するとユーザは再度ログインする必要があります。	対応するメッセージを表示します。
um cli logout	CLI からログアウトします。	対応するメッセージを表示します。
um help	第 1 レベルのすべてのサブコマンドを表示します。	第 1 レベルのすべてのサブコマンドを表示します。
um run cmd [-t <timeout>] <cluster> <command>	1 つ以上のホストでコマンドを実行する最も簡単な方法です。主に、アラートのスクリプト化を使用して ONTAP で処理を取得または実行します。オプションの timeout 引数で、コマンドがクライアントで完了するのを待機する最大時間（秒）を設定できます。デフォルトは 0（無期限に待機）です。	ONTAP から受け取ったとおり。
um run query <sql command>	SQL クエリを実行します。データベースからの読み取りが許可されるクエリのみです。更新、挿入、削除の各操作はサポートされていません。	結果は表形式で表示されます。空のセットが返された場合、または構文エラーや無効な要求がある場合は、該当するエラーメッセージが表示されます。

CLI コマンド	説明	出力
um datasource add -u <username> -P <password> [-t <protocol>] [-p <port>] <hostname-or-ip>	管理対象ストレージシステムのリストにデータソースを追加します。データソースは、ストレージシステムへの接続方法を定義したものです。データソースを追加するときは、-u（ユーザ名）オプションと -P（パスワード）オプションを必ず指定する必要があります。オプションの -t（プロトコル）では、クラスタとの通信に使用するプロトコル（http または https）を指定します。プロトコルが指定されていない場合は、両方のプロトコルが試行されます。オプションの -p（ポート）では、クラスタとの通信に使用するポートを指定します。ポートが指定されていない場合は、該当するプロトコルのデフォルト値が試行されます。このコマンドは、ストレージ管理者のみが実行できます。	ユーザに証明書の承認を求めるプロンプトを表示し、対応するメッセージを出力します。
um datasource list [<datasource-id>]	管理対象ストレージシステムのデータソースを表示します。	次の値が表形式で表示されます。 ID Address Port, Protocol Acquisition Status, Analysis Status, Communication status, Acquisition Message, and Analysis Message。
um datasource modify [-h <hostname-or-ip>] [-u <username>] [-P <password>] [-t <protocol>] [-p <port>] <datasource-id>	1 つ以上のデータソースオプションを変更します。ストレージ管理者のみが実行できます。	対応するメッセージを表示します。
um datasource remove <datasource-id>	Unified Manager からデータソース（クラスタ）を削除します。	対応するメッセージを表示します。
um option list [<option> ..]	に、を使用して設定できるすべてのオプションを示します set コマンドを実行します	次の値が表形式で表示されます。 Name, Value, Default Value, and Requires Restart.

CLI コマンド	説明	出力
<code>um option set <option-name>=<option-value> [<option-name>=<option-value> ...]</code>	1 つまたは複数のオプションを設定します。このコマンドは、ストレージ管理者のみが実行できます。	対応するメッセージを表示します。
<code>um version</code>	Unified Manager ソフトウェアのバージョンを表示します。	Version ("9.6")
<code>um lun list [-q] [-ObjectType <object-id>]</code>	<p>指定したオブジェクトでフィルタリングした LUN のリストを表示します。-q は、ヘッダーを表示しないすべてのコマンドに適用されます。ObjectType には、lun、qtree、cluster、volume、quota、または SVM を選択します。例：um lun list -cluster 1</p> <p>この例では、objectType が「-cluster」で、objectId が「1」です。このコマンドを実行すると、ID が 1 のクラスタに含まれるすべての LUN のリストが表示されます。</p>	次の値が表形式で表示されます。 ID and LUN path。
<code>um svm list [-q] [-ObjectType <object-id>]</code>	<p>指定したオブジェクトでフィルタリングした Storage VM のリストを表示します。ObjectType には、lun、qtree、cluster、volume、quota、または SVM を選択します。例：um svm list -cluster 1</p> <p>この例では、objectType が「-cluster」で、objectId が「1」です。このコマンドを実行すると、ID が 1 のクラスタに含まれるすべての Storage VM のリストが表示されます。</p>	次の値が表形式で表示されます。 Name and Cluster ID。

CLI コマンド	説明	出力
um qtree list [-q] [-ObjectType <object-id>]	<p>指定したオブジェクトでフィルタリングした qtree のリストを表示します。-q は、ヘッダーを表示しないすべてのコマンドに適用されます。ObjectType には、lun、qtree、cluster、volume、quota、または SVM を選択します。例： um qtree list -cluster 1</p> <p>この例では、objectType が「-cluster」で、objectId が「1」です。このコマンドを実行すると、ID が 1 のクラスタに含まれるすべての qtree のリストが表示されます。</p>	次の値が表形式で表示されます。 Qtree ID and Qtree Name。
um disk list [-q] [-ObjectType <object-id>]	<p>指定したオブジェクトでフィルタリングしたディスクのリストを表示します。ObjectType には、disk、aggr、node、cluster のいずれかを指定できます。例： um disk list -cluster 1</p> <p>この例では、objectType が「-cluster」で、objectId が「1」です。このコマンドを実行すると、ID が 1 のクラスタに含まれるすべてのディスクのリストが表示されます。</p>	次の値が表形式で表示されます ObjectType and object-id.
um cluster list [-q] [-ObjectType <object-id>]	<p>指定したオブジェクトでフィルタリングしたクラスタのリストを表示します。ObjectType には、disk、aggr、node、cluster、lun、qtree、ボリューム、クォータ、または SVM。例： um cluster list -aggr 1</p> <p>この例では、objectType が「-aggr」で、objectId が「1」です。このコマンドを実行すると、ID が 1 のアグリゲートが属するクラスタが表示されます。</p>	次の値が表形式で表示されます。 Name, Full Name, Serial Number, Datasource Id, Last Refresh Time, and Resource Key.

CLI コマンド	説明	出力
um cluster node list [-q] [-ObjectType <object-id>]	<p>指定したオブジェクトでフィルタリングしたクラスタノードのリストを表示します。ObjectType には、disk、aggr、node、cluster のいずれかを指定できます。例：um cluster node list -cluster 1</p> <p>この例では、objectType が「-cluster」で、objectId が「1」です。このコマンドを実行すると、ID が 1 のクラスタに含まれるすべてのノードのリストが表示されます。</p>	次の値が表形式で表示されます Name and Cluster ID.
um volume list [-q] [-ObjectType <object-id>]	<p>指定したオブジェクトでフィルタリングしたボリュームのリストを表示します。ObjectType には、lun、qtree、cluster、volume、quota、SVM またはアグリゲート。例：um volume list -cluster 1</p> <p>この例では、objectType が「-cluster」で、objectId が「1」です。このコマンドを実行すると、ID が 1 のクラスタに含まれるすべてのボリュームのリストが表示されます。</p>	次の値が表形式で表示されます Volume ID and Volume Name.
um quota user list [-q] [-ObjectType <object-id>]	<p>指定したオブジェクトでフィルタリングしたクォータユーザのリストを表示します。ObjectType には、qtree、cluster、volume、quota、svm のいずれかを指定できます。例：um quota user list -cluster 1</p> <p>この例では、objectType が「-cluster」で、objectId が「1」です。このコマンドを実行すると、ID が 1 のクラスタに含まれるすべてのクォータユーザのリストが表示されます。</p>	次の値が表形式で表示されます ID, Name, SID and Email.

CLI コマンド	説明	出力
um aggr list [-q] [-ObjectType <object-id>]	<p>指定したオブジェクトでフィルタリングしたアグリゲートのリストを表示します。ObjectType には、disk、aggr、node、cluster、volume のいずれかを指定できます。例：um aggr list -cluster 1</p> <p>この例では、objectType が「-cluster」で、objectId が「1」です。このコマンドを実行すると、ID が 1 のクラスタに含まれるすべてのアグリゲートのリストが表示されます。</p>	次の値が表形式で表示されます Aggr ID, and Aggr Name.
um event ack <event-ids>	1 つ以上のイベントに確認応答します。	対応するメッセージを表示します。
um event resolve <event-ids>	1 つ以上のイベントを解決します。	対応するメッセージを表示します。
um event assign -u <username> <event-id>	ユーザにイベントを割り当てます。	対応するメッセージを表示します。
um event list [-s <source>] [-S <event-state-filter-list>..] [<event-id> ..]	システムまたはユーザによって生成されたイベントのリストが表示されます。ソース、状態、および ID に基づいてイベントをフィルタリングします。	次の値が表形式で表示されます Source, Source type, Name, Severity, State, User and Timestamp.
um backup restore -f <backup_file_path_and_name>		対応するメッセージを表示します。

著作権に関する情報

Copyright © 2023 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。